

口頭発表プログラム

■第1日目午後

4月26日(水)	第1会場	第2会場
14:00	<p>101 座長 鈴木啓史 トマト半身萎凋病に対するトマト褐色根腐病菌の影響 加納亜沙子²・○狩野晃一¹・渡辺秀樹³・宇佐見俊行¹ (1千葉大院園・²千葉大院園・³岐阜農技セ)</p>	<p>201 座長 青木孝之 <i>Alternaria selini</i> によるパセリー葉柄基部腐敗症状の発生 ○三澤知央¹・黒瀬大介² (1道総研・道南農試・²CABI-UK)</p>
14:12	<p>102 ショウガ根茎腐敗病菌の土壌中の動態と発病の関係 ○菱池政志 (和歌山県農業試験場)</p>	<p>202 日本国内におけるネギ黒腐菌核病菌の形態的特徴と菌糸和合性 ○片岡善仁¹・上村英俊¹・田村剛史¹・キム オッキョン²・根岸寛光²・篠原弘亮² (1横浜植木(株)・²東京農大農)</p>
14:24	<p>103 鹿児島県におけるキャベツ根こぶ病の発病を回避する定植時期 ○湯田達也¹・樋口康一²・尾松直志¹ (1鹿児島農総セ・²鹿児島曾於畑かんセ)</p>	<p>203 <i>Plectosphaerella cucumerina</i> によるジャガイモ葉枯病の発生 ●宮田穂波¹・佐藤豊三²・大城 篤³・上遠野富士夫¹・廣岡裕吏¹ (1法政大植物医科・²農研機構遺資セ・³沖縄農研セ)</p>
14:36	<p>104 フザリウム属菌によるレンコン腐敗病の葉の病徴と地下茎の障害の関連性の解明 ○出穂美和¹・角田佳則¹・鍛冶原寛¹・佐々木一紀²・竹原利明³ (1山口農林総技セ・²山口大農・³農研機構 西日本農研)</p>	<p>204 Morphology and genetic characterization of <i>Phomopsis asparagi</i>, causal organism of stem blight of asparagus in Myanmar ○Myo, Z.¹, Seint, S.A.², and Matsumoto, M.³ (1ISGS, Kyushu Univ., ²YAU, ³ITA, Kyushu Univ.)</p>
14:48	<p>105 ジャガイモ疫病菌に感染した塊茎組織における常在性内生細菌密度の変化 ○秋野聖之¹・大澤 央¹・荒木宏通²・浅野賢治³・近藤則夫¹ (1北大院農・²カルビーポテト・³農研機構北農研)</p>	<p>205 アスパラガス属野生種の一つであるハマタマボウキから分離された <i>Neopestalotiopsis clavispora</i> による新病害について ●大迫佳奈¹・Thao L.D.²・Myo Z.²・飯山和弘¹・尾崎行生¹・古屋成人¹・松元 賢³ (1九大院農・²九大地球社・³九大熱研セ)</p>
15:00	<p>106 レタスパーティシリウム萎凋病の発生地域に分布するネグサレセンチュウについて ●須田美穂¹・伊藤瑞穂²・高木素紀³・渡辺賢太³・水久保隆之⁴・宇佐見俊行¹ (1千葉大院園・²株式会社 GRA・³茨城農総セ園研・⁴丸和バイオケミカル(株))</p>	<p>206 New disease report on a wild species of asparagus plant caused by <i>Diaporthe</i> spp. in Japan ●Thao, L.D.¹, Ikeuchi, T.², Mori, M.², Murakami, K.², Kanno, A.³, Uragami, A.⁴, Ozaki, Y.⁵, and Matsumoto, M.⁶ (1ISGS, Kyushu Univ., ²Kagawa, PAES, ³LS, Tohoku Univ., ⁴NARO, ⁵BBS, Kyushu Univ., ⁶ITA, Kyushu Univ.)</p>

第3会場	第4会場	第5会場
<p>301 座長 曾根輝雄 生育初期におけるダイズ茎疫病抵抗性の品種間差異と種子処理剤による発病抑制効果 ○赤松 創¹・加藤雅康^{2,3}・越智直^{2,4}・三室元気²・高橋真実¹ (1農研機構・中央農研北陸・2農研機構・中央農研・3国際農研・4農研機構・経営戦略室)</p>	<p>401 座長 近藤秀樹 種子と花粉で後代に伝播する <i>Pyrus pyrifolia cryptic virus</i> 外被タンパク質をコードする分節ゲノム ○大崎秀樹・佐々木厚子・長岡 (中蘭) 栄子・大田将禎・中畝良二 (農研機構果樹茶研)</p>	<p>501 座長 染谷信孝 Genetic diversity of Myanmar strains of <i>Ralstonia solanacearum</i> ●Kyaw, H.W.W.¹, Matsumoto, M.², Kurose, D.³, Iiyama, K.¹, Horita, M.⁴, Tsuchiya, K.¹, and Furuya, N.¹ (1Grad. School Agri. Kyushu Univ., 2Inst. of Trop. Agri. Kyushu Univ., 3CABI-Europe-UK, 4Inst. Agro-Environ. Sci.)</p>
<p>302 イネいもち病抵抗性 NLR 免疫受容体 Pii-2 に存在する NOI/RIN4 ドメインは Pii 依存的抵抗性に必要な OsExo70-F3 と結合する ○藤崎恒喜¹・阿部善子¹・神崎英子¹・神崎洋之¹・齋藤宏昌¹・寺内良平^{1,2} (1岩手生工研・2京大院農)</p>	<p>402 大分県の施設栽培ピーマンから分離されたトウガラシ退緑ウイルスの諸性質と塩基配列の解析 ○千秋祐也¹・宇杉富雄¹・櫻井民人¹・富高保弘²・久保田健嗣¹ (1農研機構・中央農研・2農研機構・九沖農研)</p>	<p>502 1989年千葉県にてコリアンダーより分離された細菌の同定 ●菊池明日香¹・土屋健一²・瀧川雄一³ (1静岡大農・2九大院農・3静岡大創造院)</p>
<p>303 抵抗性品種「みねはるか」, 「ゆめまつり」によるイネいもち病の抑制 ○清水佐知子・星野 滋・浦野光一郎 (広島総研農技セ)</p>	<p>403 北海道に発生するビート黄化ウイルス (BLYV) とアブラナ萎黄ウイルス (BrYV) の宿主範囲と遺伝的特性 吉田直人・○玉田哲男 (ホクレン農総研)</p>	<p>503 ホルトノキ萎黄病ファイトプラズマの種の同定 ●遠藤 藍¹・岩淵 望²・前島健作²・亀山統一³・佐藤征弥⁴・難波成任²・大島研郎¹ (1法政大植医・2東大院農・3琉球大農・4徳島大生資産)</p>
<p>304 ネコブセンチュウの病原性機構と植物の感染防御機構の解明 ○門田康弘¹・市橋泰範^{1,2}・植原健人³・岩堀英晶⁴・槇 紀子¹・鈴木孝征⁵・白須 賢¹ (1理研 CSRS・2JST さきがけ・3農研機構・中央農研・4龍谷大農・5中部大応用生物)</p>	<p>404 オオバコモザイクウイルスの遺伝的に多様な新規分離株の単離と系統解析 ●田中雅士¹・野中友美子¹・今井一穂²・菅原康太²・山下一夫³・花田 薫⁴・一木 (植原) 珠樹⁴・小松 健¹・藤 晋一² (1農工大院農・2秋田県立大生資・3元青森産技セ野菜研・4農研機構遺伝資源センター)</p>	<p>504 アジサイ, キク, キリ, クワ 4 種植物の <i>Phytoplasma</i> 性病原体の人工培養法確立と, それら病原体の戻し接種による病徴の再現 ○岸 國平 (岸病害ラボ)</p>
<p>305 水稻品種「銀河のしずく」のいもち病防除体系の検討 ○菅 広和 (岩手農研セ)</p>	<p>405 座長 小松 健 日本国内のパッションフルーツに果実奇形を起すポティウイルスを新種 <i>East Asian passiflora distortion virus</i> として提案する 大童奏実¹・佐藤佑華²・○リスカ³・中村正幸¹・福元智博⁴・澤岬哲也⁵・藤 晋一²・岩井 久¹ (1鹿児島大農・2秋田県立大生資・3鹿児島大院連農・4鹿児島農総セ果樹・5沖縄農研セ名護)</p>	<p>505 ファイトプラズマの <i>recA</i> 遺伝子の偽遺伝子化に関する変異解析 ●萩原悠理¹・前島健作²・難波成任²・大島研郎¹ (1法政大植医・2東大院農)</p>
<p>306 座長 別役重之 Chitin nanofiber: a promising novel material for plant disease control ○Parada, R.Y.¹, Egusa, M.¹, Aklog, Y.F.², Ifuku, S.², and Kaminaka, H.¹ (1Faculty of Agriculture Tottori University, 2Graduate School/Faculty of Engineering Tottori University)</p>	<p>406 国産ニンニク由来タマネギ萎縮ウイルス (<i>Onion yellow dwarf virus, OYDV</i>) の遺伝的多様性 ●稲 雪乃・篠原弘亮・根岸寛光・雨木若慶・キム オッキョン (東京農大農)</p>	<p>506 座長 竹内香純 国内のキャッサバから初めて検出されたファイトプラズマの分子遺伝学的解析 ●鯉沼宏章・若木連也・宮崎彰雄・岩淵 望・丹野和幸・北沢優悟・前島健作・山次康幸・難波成任 (東大院農)</p>

■第1日目午後

4月26日(水)	第1会場	第2会場
15:12	<p>107 座長 中馬いづみ トマト萎凋病菌 41-1 株から見出された新たな <i>AVRI</i> 変異様式 赤井浩太郎¹・菊地 秀^{2,3}・鮎川 侑⁴・中田菜々子⁵・寺岡 徹^{1,6}・小松 健^{1,7}・○有江 力¹ (¹農工大院農・²農工大院 BASE・³農工大リーディング・⁴農工大院連農・⁵千葉県農林総合研究センター・⁶現農工大環安セ・⁷農工大グローバルイノベーション研究院)</p>	<p>207 座長 菅原幸哉 <i>Colletotrichum tabacum</i> によるジニア炭疽病 (新称) の発生および品種間の発病差異 久保田まや¹・○西村武祥²・廣岡裕吏² (¹東京農総研・²法政大植物医科)</p>
15:24	<p>108 トマト半身萎凋病菌の病原性決定染色体の推定と解析 3 ●濱野あやめ・中尾圭佑・鈴木那奈・宇佐見俊行 (千葉大院園)</p>	<p>208 <i>Colletotrichum</i> sp. によるシュッコンアスター炭疽病 (新称) の発生 ○菅原 敬¹・五十嵐美穂¹・工藤昌樹²・長谷 修³・佐藤 衛⁴ (¹山形防除所庄内・²山形北村山農普・³山形大農・⁴農研機構野菜花き研)</p>
15:36	<p>109 トマト台木品種のトマト半身萎凋病に対する耐病性 ●菊池琴乃¹・渡辺秀樹²・渡辺博幸³・内館雅晴⁴・島崎高嘉⁴・宇佐見俊行¹ (¹千葉大院園・²岐阜農技セ・³岐阜飛騨農事・⁴朝日工業)</p>	<p>209 3種 <i>Pythium</i> 属菌によるアジサイ茎根腐病 (病原追加) ○永島 進¹・尤 暁東²・東條元昭² (¹島根農技セ・²大阪府大院生環)</p>
15:48	<p>110 Micro-Tom EMS 突然変異体由来 <i>Sclerotinia minor</i> 抵抗性株の選抜とその評価 ●服部 暉¹・石賀康博²・山岡裕一² (¹筑波大学院生物資源・²筑波大学生命環境系)</p>	<p>210 First Report of Stem Rot on Hydrangea Caused by <i>Phytophthora hedraiaandra</i> in Japan ●Yosilia, R.¹, Morishima, M.², Suga, H.³, and Kageyama, K.¹ (¹River Basin Res. Center, Gifu Univ., ²Tochigi Pref., ³Life Sci. Res. Center, Gifu Univ.)</p>
16:00	<p>111 イチゴにおける紫外光誘導抵抗性の評価法の検討 酒衛由里子¹・小林優大¹・福丸晴菜¹・椎葉美里¹・西村文宏²・森 充隆²・佐藤 衛³・○竹下 稔¹ (¹宮崎大農・²香川農試・³農研機構野菜花き研)</p>	<p>211 <i>Phialophora</i> sp. によるシャクヤク根腐病 (新称) ○川部真登¹・築尾嘉章²・田村隆幸³・桃井千巳¹・守川俊幸² (¹富山農総セ園研・²富山農総セ農研・³富山薬研薬植セ)</p>
16:12	<p>112 座長 上野 誠 いもち病菌集団内エフェクター分布解析によるシコクビエいもち病菌の普通系コムギに対する新規非病原力遺伝子のクローニング ○足助聡一郎・Nicole Magculia・中馬いづみ・土佐幸雄 (神戸大院農)</p>	<p>212 <i>Ptilidium concavum</i> (Desmazières) Höhnelt によるボタン褐紋病 (新称) ○福間貴寿・永島 進 (島根農技セ)</p>

第3会場	第4会場	第5会場
<p>307 空中超音波への暴露による植物の耐病性・耐塩性誘導に関する研究 ●川上大地¹・吉田隆延³・水上智道³・天野 裕⁴・岩ヶ谷照義⁴・有竹治郎⁴・後藤昭広⁴・江波義成⁵・山本雅則⁵・有元倫子⁵・寺岡 徹⁶・小松 健²・福原敏行²・有江 力² (¹農工大院連農・²農工大院農・³農研機構・革新工学セ・⁴(株) プレテック・⁵滋賀農技セ・⁶農工大環安セ)</p> <p>308 ウイルス抵抗性品種の作出に向けたユリ eIF4E アイソフォームのクローニング ●関村紘代¹・岡野夕香里¹・二條貴通¹・桂馬拓也¹・遊佐 礼¹・前島健作¹・近藤正剛²・難波成任¹・山次康幸¹ (¹東大院農・²新潟農総研)</p> <p>309 マツノザイセンチュウ感染後のクロマト転写プロファイル ●山口莉未¹・田村美帆²・渡辺敦史² (¹九大院生資環・²九大院農)</p>	<p>407 アマニューから分離された新種の Potyvirus ●城戸響介・高橋光政・日沖晴信・河合茉紀・平栗章弘・川合 昭・西尾健 (法政大学植物医科)</p> <p>408 我が国におけるウメ輪紋ウイルス M 系統の初確認 ○大石盛伝・井上佳美・星野智士・牛久修一・藤原裕治・本蔵洋一 (横浜植防)</p> <p>409 座長 佐野義孝 イネ縞葉枯ウイルスに感染したイネ科雑草及び牧草からのヒメトビウカによるウイルス獲得 ○奥田 充¹・花田 薫²・柴 卓也¹・平江雅宏¹・浅井元朗³・小林浩幸¹ (¹中央農業研究センター・²農研機構 遺伝資源・³農研機構東北農研)</p>	<p>507 LAMP 法によるキャッサバのファイトプラズマ検定の最適化 ●若木連也・鯉沼宏章・宮崎彰雄・岩淵 望・二條貴通・北沢優悟・前島健作・山次康幸・難波成任 (東大院農)</p> <p>508 リアルタイム定量 PCR 法によるキウイフルーツかいよう病菌 (biovar 3) の花粉からの検出の試み ○清水伸一¹・青野光男¹・篠崎 毅¹・三好孝典²・矢野 隆¹・澤田宏之³ (¹愛媛果樹研セ・²愛媛農水研・³農研機構・遺伝資源セ)</p> <p>509 カンキツグリーニング病原細菌の検定に適したカンキツ樹ブランチカラーの採取方法 ○尾川宜広¹・中西善裕²・福元智博³・山口卓宏¹・中村正幸⁴・岩井 久⁴ (¹鹿児島農総セ大島・²大隅加工技研セ・³鹿児島農総セ果樹・⁴鹿児島大農)</p>
<p>310 座長 佐藤育男 比誘電率測定を用いた非破壊での植物細胞内変化の診断法の開発 ○古川聡子¹・風巻朱佳²・キックアルフレード²・鈴木敬久² (¹首都大学生命・²首都大電気電子)</p> <p>311 DNA マイクロアレイを用いた植物病害診断の応用研究 (5) ○一色淳憲¹・大津貴義¹・辻 元人² (¹東洋製罐 GHD 綜研・²京府大院生環)</p> <p>312 リアルタイム PCR 法によるタマネギ紅色根腐病の菌密度評価と発生リスクの査定 ○吉田直人¹・津田秀樹²・田中理恵³・二井本ちさと¹ (¹ホクレン農総研・²JA きたみらい・³網走農改セ)</p>	<p>410 【講演取り下げ】</p> <p>411 ヴァージニア州における Red Blotch と他のブドウウイルス種の発症状況 ○荷田瑞穂・ジョーンズ テイラー (バージニア工科大学)</p> <p>412 シソモザイクウイルスのシソサビダニによる媒介特性および宿主範囲 ○久保田健嗣¹・宇杉富雄¹・千秋祐也¹・富高保弘²・岡田知之³・広瀬拓也³・田中 穰¹・津田新哉¹ (¹農研機構・中央農研・²農研機構・九沖農研・³高知農技セ)</p>	<p>510 座長 川口 章 ハーデンベルギア斑点細菌病 (新称) の発生 ○石原 誠¹・小河誠司² (¹森林総研北海道・²元福岡県森林林業技術センター)</p> <p>511 輸入検疫でオランダ産ヒヤシンス球根から発見された <i>Dickeya solani</i> による軟腐病 (新称) 平川崇史・上田幸史・上松 寛・○西口 徹・藤原裕治 (横浜植防)</p> <p>512 露地ニラに発生した <i>Herbaspirillum</i> sp. によるニラ条斑細菌病 (新称) ○矢野和孝・沖 友香・森田泰彰 (高知農技セ)</p>

■第1日目午後

4月26日(水)	第1会場	第2会場
16:24	<p>113 コムギいもち病菌の保有するシコクビエに対する非病原力遺伝子の検出と分子マッピング ●天藤陽香・足助聡一郎・村上 翼・中馬いづみ・土佐幸雄（神戸大院農）</p>	<p>213 座長 須崎浩一 <i>Colletotrichum fioriniae</i> によるカンキツ炭疽病の発生 ○田代暢哉¹・尾形綾子¹・正司和之¹・佐藤豊三²（¹佐賀上場営農セ・²農研機構遺資セ）</p>
16:36	<p>114 エンバクいもち病菌のコムギ品種 Hope に対する非病原力遺伝子のクローニング ●堀江晶子・小松香織・東 夏希・村上 翼・足助聡一郎・中馬いづみ・土佐幸雄（神戸大院農）</p>	<p>214 <i>Colletotrichum nymphaeae</i> (Passerini) Aa によるブドウ晩腐病（病原追加） ○綿打享子¹・村上芳照²・内田一秀¹・功刀幸博¹・佐藤豊三³（¹山梨果樹試・²山梨総農セ・³農研機構遺資セ）</p>
16:48	<p>115 炭疽病菌といもち病菌のエフェクター相同遺伝子の機能解析 ●林 蒼唯・高原浩之（石川県立大）</p>	<p>215 <i>Sclerotinia sclerotiorum</i> によるマンゴー菌核病（新称） ○安次富厚・大城 篤・山城麻希（沖縄農研セ）</p>
17:00	<p>116 イネいもち病菌の感染時特異的分泌タンパク質 Rbf1 の機能解析 ○西澤洋子¹・望月 進^{1,2}・西村岳志^{1,3}・中島恵美¹・南 尚子¹・南 栄一¹（¹農研機構・生物研・²現香川大・希少糖・³現名古屋大・農）</p>	<p>216 ビワの無病微葉および枝から分離された病原性をもつ <i>Neopestalotiopsis</i> 属菌 ●野澤俊介¹・内川敬介²・菅 康弘²・渡辺京子^{1,3}（¹玉川大・²長崎農技セ・³玉川大菌学応用）</p>
17:12	<p>117 Tin2 orthologues of <i>Ustilago maydis</i> and the close relative <i>Sporisorium reilianum</i> target different maize proteins ○Tanaka, S., and Kahmann, R. (Max Planck Institute of Terrestrial Microbiology)</p>	<p>217 <i>Diaporthe</i> sp. によるパッションフルーツ実腐病（新称） ●蓑島綾華¹・鳥本雄太¹・小野 剛²・菅原優司²・廣岡裕吏¹（¹法政大植物医科・²東京小笠原農セ）</p>
17:24		<p>218 沖縄県宮古島でのバナナパナマ病の発生とその病原菌 ●二谷貴夫¹・赤井浩太郎²・長谷川凌²・鮎川 侑¹・千年 篤^{1,2}・小松健^{1,2,6}・池城隆明⁵・菊野日出彦³・夏秋啓子⁴・有江 力^{1,2,6}（¹農工大院連農・²農工大院農・³東京農大国際食料情報 宮古亜熱帯農場・⁴東京農大国際食料情報・⁵那覇植防・⁶農工大 GIR）</p>

第3会場	第4会場	第5会場
<p>313 Convolutional Neural Networks を用いたキュウリ罹病葉の画像診断システムの開発 ●黒川達嗣¹・畠山恭輔¹・宇賀博之²・藤田恵梨香³・川崎雄介³・彌富 仁³・鎌和田聡¹ (1法政大植物医科・2埼玉県農技研セ・3法政大応用情報)</p>	<p>413 アブラムシ2種の有翅虫および無翅虫におけるウメ輪紋ウイルス媒介能の比較 ○櫻井民人・千秋祐也・久保田健嗣・宇杉富雄・津田新哉 (農研機構・中央農研)</p>	<p>513 <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>actinidifoliorum</i> によるマタタビ類斑点細菌病 (新称) ○澤田宏之¹・藤川貴史²・北 宜裕³・折原紀子³・篠崎 毅⁴・清水伸一⁴・中畝良二²・瀧川雄一⁵ (1農研機構・遺伝資源セ・2農研機構・果樹茶業研・3神奈川農技セ・4愛媛農水研・5静岡大院創造)</p>
<p>314 座長 清水将文 非病原性 <i>Fusarium oxysporum</i> W5 のイネにおける動態と生残性 ●齊藤大幹¹・佐々木舞衣¹・畠山聡²・梅村賢司²・倉内賢一³・鈴木智貴^{4,5}・寺岡 徹¹・小松 健^{1,6}・有江力¹ (1農工大院農・2Meiji Seika ファルマ (株)・3青森産技セ・4宮城古川農試・5現仙台農業改良普及セ・6農工大 GIR)</p>	<p>414 座長 奥田 充 アセチル化グリセリド (ベミデタッチ乳剤[®]) の散布によるトマト施設でのタバココナジラミとトマト黄化葉巻病 (TYLCV) の抑制効果 ○松浦昌平¹・加嶋崇之²・北村登史雄³・梶原真二¹・安部 洋⁴ (1広島総研農技セ・2石原産業・3九州沖縄農研・4理研 BRC)</p>	<p>514 座長 澤田宏之 <i>Dickeya</i> sp. によるサトウキビ芯腐細菌病 (新称) ○會澤雅夫¹・安次富厚²・大城 篤²・山口綾子³・久保田菜夏⁴・瀧川雄一⁵ (1那覇植防・2沖縄農研セ・3沖縄防技セ・4八重山農改・5静岡大創造院)</p>
<p>315 タケとクズ由来のミミズコンポストに含まれる土壌伝染性植物病原菌抑制物質の解析 尤 暁東¹・若菜大悟²・細江智夫²・下神幸博³・○東條元昭¹ (1大阪府大院生環・2星薬大・3河内長野市環境政策課)</p>	<p>415 アセチル化グリセリドと耐病性品種によるタバココナジラミの TYLCV の媒介抑制と保毒虫率への影響評価 ○大西 純¹・北村登史雄²・加嶋崇之³・安部 洋⁴ (1農研機構・野菜花き研・2農研機構・九州沖縄農研・3石原産業・4理研 BRC)</p>	<p>515 サトウキビ芯腐細菌病より分離される <i>Dickeya</i> 属菌の性状と同定 ○瀧川雄一^{1,2}・岡 かこ²・川村和生²・丸山美咲²・會澤雅夫³・安次富厚⁴・大城 篤⁴・山口綾子⁵・久保田菜夏⁶ (1静岡大創造院・2静岡大農・3那覇植防・4沖縄農研セ・5沖縄防技セ・6八重山農改)</p>
<p>316 海藻資材によるアブラナ科野菜根こぶ病の発病抑制 ○辻 元人¹・石田理子¹・道家章生²・小野 愛³・木村重光³・久保中央^{1,3} (1京府大院生環・2京都府農技セ海洋セ・3京都府農技セ生資セ)</p>	<p>416 タバコモザイクウイルス感染植物におけるミカンキイロアザミウマ誘引性とそのメカニズム ○富高保弘¹・安部 洋²・櫻井民人³・津田新哉³ (1農研機構 九沖農研・2理研 BRC・3農研機構 中央農研)</p>	<p>516 <i>Pseudomonas cichorii</i> によるツルマメ褐斑細菌病 (新称) ●谷 沙世¹・入江沙織¹・大貫正俊²・佐藤豊三³・松元 賢⁴・飯山和弘¹・黒瀬大介⁵・土屋健一¹・古屋成人¹ (1九大院農・2九州沖縄農研・3生物研・4九大熱研セ・5CABI Europe-UK)</p>
<p>317 土壌還元消毒過程に関わる抗菌性物質の生成と土壌微生物の動態調査 ○堀田光生¹・門馬法明²・小原裕三¹ (1農研機構・農環研・2園芸植物育種研)</p>	<p>417 各種プラントアクチベーターによるキュウリ苗でのズッキーニ黄斑モザイクウイルス抑制効果 ○西村幸芳・西岡輝美・岡田清嗣 (地独 大阪環農水総研)</p>	<p>517 リング急性衰弱症の発症部位から分離される <i>Dickeya dadantii</i> ○藤川貴史¹・岩波 徹¹・佐々木真人²・西田絵梨香²・菅 広和²・中村太紀² (1農研機構・果樹茶業研究部門・2岩手農研セ)</p>
<p>318 トルコギキョウ褐色根腐病に対する薬剤および土壌還元消毒の防除効果 ○近藤 亨 (青森産技セ農林総研)</p>		<p>518 国内で分離されたジャガイモ黒あし病菌 <i>Pectobacterium carotovorum</i> の再同定 ○藤本岳人¹・安岡眞二²・青野桂之³・中山尊登¹・大木健広¹・眞岡哲夫¹ (1農研機構・北海道農研・2道総研・3農研機構・種管セ中央)</p>

■第2日目午前

4月27日(木)	第1会場	第2会場
9:30	<p>119 座長 多田安臣 タバコ赤星病菌のテヌアゾン酸生合成遺伝子 <i>AtNPS5</i> は宿主タバコに対する病原力に関する</p> <p>○赤木靖典¹・新城 亮²・三木淳一²・柘植尚志³・児玉基一朗¹ (¹鳥取連大・²JT 葉たばこ研・³名大院生農)</p>	<p>219 座長 田中和明 カジイチゴ (<i>Rubus trifidus</i>) のべと病 (新称) の発生</p> <p>○大上大輔¹・野津あゆみ²・栢森美如³ (¹ホクレン・²道総研中央農試・³道総研十勝農試)</p>
9:42	<p>120 免疫応答において MAPK 活性を可視化するバイオセンサーの開発</p> <p>○安達広明¹・石濱伸明²・吉岡美樹¹・鳴坂真理³・鳴坂義弘³・吉岡博文¹ (¹名大院生農・²理研 CSRS・³岡山生科研)</p>	<p>220 <i>Pythium splendens</i> によるロゼルアサ (ロゼル) 根腐病 (病原追加)</p> <p>○戸田浩子¹・鈴木杏子¹・三宅律幸¹・鈴木良地¹・坂 紀邦¹・景山幸二² (¹愛知農総試・²岐阜大流域研セ)</p>
9:54	<p>121 いもち病抵抗性における菌の増殖抑制に関わる物質の探索</p> <p>○岩井孝尚¹・今香菜絵¹・光原一朗²・瀬尾茂美² (¹宮城大食産業・²農研機構生物部門)</p>	<p>221 <i>Phytophthora nicotianae</i> によるロゼルアサ (ロゼル) 疫病の国内初発生</p> <p>○鈴木杏子¹・戸田浩子¹・三宅律幸¹・鈴木良地¹・坂 紀邦¹・景山幸二² (¹愛知農総試・²岐阜大流域研セ)</p>
10:06	<p>122 The DNA damage signal transducer ortholog <i>Mop53BPI</i> is expressed in germinating conidia of <i>Pyricularia oryzae</i></p> <p>● Ohara, A., Abe, A., and Sone, T. (Grad. Sch. Agr., Hokkaido Univ.)</p>	<p>222 トウキとミシマサイコから分離された植物病原糸状菌</p> <p>○佐藤豊三¹・廣岡裕吏²・菱田敦之³・林 茂樹³・安食菜穂子³・川原信夫³・田村隆幸⁴・辰尾良秋⁵・村上芳哉⁵・高尾泰昌⁵・黒崎文也⁵・一木 (植原) 珠樹¹・根本 博¹ (¹農研機構遺資セ・²法政大植物医科・³医薬健康研薬植セ・⁴富山薬事研薬植セ・⁵富山大薬用植物園)</p>
10:18	<p>123 座長 鬼頭英樹 水田畦畔におけるイネいもち病菌のメキシコへの自然感染の調査</p> <p>●木村晋輔・草場基章 (佐賀大農)</p>	<p>223 カノコソウに発生した <i>Phoma</i> spp. の病原性と種の同定</p> <p>●利根川千枝¹・佐藤豊三²・飯田修³・菱田敦之³・川原信夫³・廣岡裕吏¹ (¹法政大植物医科・²農研機構遺伝資源セ・³医薬健康研薬植セ)</p>
10:30	<p>124 ある一農家が保有する複数のイネばか苗病発生水田から分離した <i>Fusarium fujikuroi</i> の個体分析</p> <p>○須賀晴久¹・船坂美佳¹・川畑文字¹・清水将文²・景山幸二³ (¹岐大生命セ・²岐大応生・³岐大流域研セ)</p>	<p>224 コナラ属アカガシ亜属に新しく発生した <i>Erysiphe quercicola</i> (ウドンコカビ科)</p> <p>○高松 進¹・篠田俊哉²・勝山さや² (¹三重大院生資・²三重大生資)</p>

第3会場	第4会場	第5会場
<p>319 座長 大西浩平 コムギ赤かび病で有効性が確認されたデオキシニバレノール分解細菌の飼料用トウモロコシへの応用 ○小板橋基夫¹・黄川田智洋²・菅原幸哉¹・吉田重信³・伊藤通浩⁴・佐藤育男⁵・對馬誠也⁶ (¹農研機構畜産部門・²農研機構北農研・³農研機構中央農研・⁴琉大熱生研・⁵名大院生農・⁶東京農大)</p>	<p>419 座長 富高保弘 青森県のスナップエンドウに発生したウイルス病について 山下一夫¹・一木(植原)珠樹²・ ○花田 薫² (¹元青森野菜研・²農研機構遺資セ)</p>	<p>519 座長 川部眞登 ムギ類黒節病の時空間分布解析 ○川口 章¹・吉岡陸人²・森 充隆³・河田和利³・富岡啓介¹・竹原利明¹ (¹農研機構・西日本農研・²山口農林総合セ・³香川農試)</p>
<p>320 暖地ジャガイモのそうか病を抑制する栽培体系の検討 ○菅 康弘¹・福吉賢三¹・三星暢公²・金澤 恵²・石川美友紀²・紀岡雄三²・野口勝憲² (¹長崎農技セ・²片倉コープアグリ(株))</p>	<p>420 薬用植物ミシマサイコとカノコソウから見いだされた植物ウイルス ○一木(植原)珠樹¹・大橋美保¹・田村隆幸²・辰尾良秋³・村上芳哉³・高尾泰昌³・黒崎文也³・佐藤豊三¹・花田 薫¹・青木孝之¹ (¹農研機構遺資セ・²富山薬用植物指セ・³富山大薬用植物園)</p>	<p>520 ブロッコリー黒斑細菌病菌の感染時期が花蕾腐敗病の発生に及ぼす影響 ○石山佳幸・山岸菜穂・清水時哉(長野県野菜花き試験場)</p>
<p>321 ネギ黒腐菌核病に対する <i>Coniothyrium minitans</i> 製剤の効果的な処理方法 ○鈴木幹彦¹・伊代住浩幸²・斉藤千温¹・墨岡宏紀³ (¹静岡農林研・²静岡経済産業部・³静岡中遠農林)</p>	<p>421 宮崎県内の栽培ランナンキュラスにおける <i>Ranunculus Leaf Distortion virus</i> の発生とその発生状況 ○早日早貴^{1,2}・細川秀子³・菅野善明³ (¹西臼杵支庁・²宮大院農工・³南九大院園)</p>	<p>521 福岡県における2016年のキウイフルーツかいよう病 biovar3 (Psa3) の発生状況 ○菊原賢次・成山秀樹・石井貴明(福岡農林試)</p>
<p>322 Novel strains of <i>Mitsuaria chitosanitabida</i> and <i>Ralstonia pickettii</i> as biocontrol agents against tomato bacterial wilt ○Marian, M.¹, Koyama, H.¹, Suga, H.², and Shimizu, M.¹ (¹United Grad. Sch. Agric. Sci., Gifu Univ., ²Life Sci. Res. Center, Gifu Univ.)</p>	<p>422 ウメからの <i>Plum bark necrosis stem pitting-associated virus</i> と <i>Little cherry virus 2</i> の同時検出技術 中畝良二¹・○大田将禎¹・沼口孝司²・武田知明³ (¹農研機構・果樹茶研・²和歌山果樹試うめ研・³和歌山那賀農振)</p>	<p>522 キウイフルーツかいよう病菌検出用 LAMP プライマーの特性 ○須崎浩一¹・澤田宏之²・牛田泰裕³・篠崎 毅⁴・清水伸一⁴・野口真弓⁵・青野光男⁴・森岡秀樹⁶ (¹農研機構・果樹茶・²農研機構・遺伝資源・³香川農試府中・⁴愛媛農林水産研果樹研セ・⁵佐賀果樹試・⁶愛媛県東予地方局)</p>
<p>323 <i>Simplicillium</i> sp. によるダイズのダイズさび病への抵抗性機構の解明 ●重松幸一¹・山岡裕一²・岡根 泉²・阿部淳一ピーター²・石賀康博² (¹筑波大院生物資源・²筑波大生命環境)</p>	<p>423 ループプライマーの追加によるイチゴの病原ウイルス検出用 LAMP 法の改良 ○加藤 寛¹・福田理沙²・西川尚志²・夏秋知英² (¹宇都宮大バイオ・²宇都宮大農)</p>	<p>523 座長 外側正之 福島県におけるモモせん孔細菌病の発生助長要因 ○七海隆之・柳沼久美子(福島農総セ果樹研)</p>
<p>324 座長 竹原利明 育苗培土の種類が4種のイネ種子伝染性病害の発生に及ぼす影響 三室元気¹・○関原順子²・守川俊幸² (¹農研機構・中央農研・²富山農総セ農研)</p>	<p>424 FTA カードによる <i>Begomovirus</i> 属ウイルスの検出とベトナム産トマトから検出された同属ウイルスの同定 ○高田亜由美¹・Trinh X. Hoat²・夏秋啓子¹ (¹東京農大国際・²PPRI, Vietnam)</p>	<p>524 福島県におけるモモせん孔細菌病菌のストレプトマイシン耐性菌の割合の調査 ●國京瑞季¹・七海隆之²・柳沼久美子²・キム オッキョン¹・根岸寛光¹・篠原弘亮¹ (¹東京農大農・²福島農総セ果樹研)</p>

■第2日目午前

4月27日(木)	第1会場	第2会場
10:42	<p>125 宮城県における加温条件がイネ紋枯病へ及ぼす影響について ○宮野法近・辻 英明・櫻田史彦（宮城古試）</p>	<p>225 座長 戸田 武 農業生物資源ジーンバンク微生物部門に登録された真菌類（糸状菌・酵母）保存菌株の学名管理について ○青木孝之・埋橋志穂美・澤田宏之・永井利郎・一木（植原）珠樹・中島比呂美（農研機構・遺伝資源センター）</p>
10:54	<p>126 山口県のコムギに発生した葉枯れ症の原因 ○吉岡陸人・角田佳則（山口農林総技セ）</p>	<p>226 日本植物病名目録に掲載される <i>Pythium</i> 属病原菌の分類の変遷・再同定について ○埋橋志穂美・青木孝之・中島比呂美・山崎 幸（農研機構・遺伝資源セ）</p>
11:06	<p>127 コムギ赤かび病感染予測システム Ver.1 の開発 ○中島宏和¹・萬田 等¹・山下 亨²・豊嶋悟郎¹（¹長野農試・²長野野花試佐久支場）</p>	<p>227 日本産ソルガム麦角病菌の系統解析と近縁種の分類学的考察 ○田中栄爾¹・棚田一仁¹・月星隆雄²・高井智之³・原田幸雄⁴（¹石川県立大・²農研機構 / 西日本農研・³九沖農研・⁴弘前市）</p>
11:18	<p>128 トウモロコシすす紋病菌の侵入に必要な葉面濡れ時間 ○岡部郁子（農研機構・畜産研究部門）</p>	<p>228 Population Structure Analysis of <i>Phytophthora nicotianae</i> in Japan ● Afandi, A.¹, Borjigen, C.², Suga, H.³, and Kageyama, K.²（¹UGSAS, Gifu University, ²River Basin Res. Center, Gifu Univ, ³Life Sci. Res. Center, Gifu Univ）</p>
11:30	<p>129 座長 加藤新平 Saccharin suppresses fungal penetration on <i>Arabidopsis thaliana</i> through enhanced expression of defense-related genes ● Phuong, L.T.¹, Matsui, H.¹, Noutoshi, Y.¹, Yamamoto, M.¹, Ichinose, Y.¹, Shiraishi, T.^{1,2}, and Toyoda, K.¹（¹Grad. Sch. Environ. & Life Sci., Okayama Univ., ²RIBS Okayama）</p>	<p>229 Characterization of Egyptian <i>Phytophthora infestans</i> population using microsatellite markers ● Arafa, R.A.^{1,3}, Kamel, S.M.¹, Moussa, O.M.², Soliman, N.E.K.², and Shirasawa, K.³（¹PPRI, ARC, ²PPD, Fac. of Agri., Cairo Univ., ³KDRI）</p>
11:42	<p>130 The mode of action of endogenous suppressor(s) in <i>Arabidopsis thaliana</i> ● Mai, T.L.¹, Kawasaki, T.¹, Aprilia, N.F.¹, Matsui, H.¹, Noutoshi, Y.¹, Yamamoto, M.¹, Ichinose, Y.¹, Shiraishi, T.^{1,2}, and Toyoda, K.¹（¹Grad. Sch. Environ. & Life Sci., Okayama Univ., ²RIBS Okayama）</p>	<p>230 異質二倍体 <i>Verticillium longisporum</i> のミトコンドリア DNA の起源 ● 正田亮平・山口実那・山口友輔・藤村 真（東洋大生命）</p>

第3会場	第4会場	第5会場
<p>325 土壌理化学性から見たダイズ黒根腐病の発病要因 ○三室元気^{1,2}・青木由美²・関原順子²・蛭谷朋佳³・赤松 創⁴・越智 直⁵・守川俊幸² (¹農研機構・中央農研・²富山農総セ・農研・³富山農技・広域普指セ・⁴農研機構・中央農研・北陸研究拠点・⁵農研機構・経営戦略室)</p> <p>326 品種あるいは播種時期が飼料用トウモロコシのかび毒フモニシンの蓄積に及ぼす影響 ○笹谷孝英¹・川上 顕²・加藤直樹²・松倉啓一郎²・井上博喜²・平八重一之²・宮坂 篤² (¹農研機構本部・²農研機構九州沖縄農研)</p> <p>327 実験的低温化温水処理における白紋羽病菌菌糸圏細菌および真菌群集の変動解析 ●田森悠美¹・勝山千恵²・于 遥²・中村 仁³・久我ゆかり² (¹広大院総科・²広大院総科・³農研機構果樹茶部門)</p>	<p>425 座長 久保田健嗣 カブモザイクウイルスの同義置換部位を用いた塩基置換速度および分岐年代の推定 ○八坂亮祐^{1,2}・大島一里^{1,2} (¹佐賀大農・²鹿児島大院連農)</p> <p>426 レンゲ委縮ウイルスの環状ゲノムにみられる多様性について ○佐野義孝¹・Muhammad Kamal Uddin^{1,2}・高濱有沙¹ (¹新潟大学農学部・²バングラデシュ農業大学)</p> <p>427 <i>Plum bark necrosis stem pitting associated virus</i> と <i>Little cherry virus 2</i> の感染がウメ果実肥大に及ぼす影響について ○沼口孝司¹・中畝良二²・武田知明³ (¹和歌山果樹試うめ研・²農研機構果樹茶研・³和歌山那賀農水振)</p>	<p>525 生育期の銅水和剤散布によるモモせん孔細菌病の抑制効果 ○永井裕史・三宅律幸 (愛知農総試)</p> <p>526 モモせん孔細菌病の落葉痕への感染時期と秋季防除の効果 ○江口直樹¹・横澤志織¹・山田一成²・加藤秀一¹ (¹長野県果樹試験場・²長野県農業大学校)</p> <p>527 愛知県豊橋市におけるモモせん孔細菌病の春型枝病斑の早期切除による防除技術の体系化に向けた調査結果 ○堀川英則¹・伊藤涼太郎¹・永井裕史¹・森 敬子¹・武山桂子¹・中畝良二²・三宅律幸¹ (¹愛知農総試・²農研機構果樹茶業部門)</p>
<p>328 白紋羽病菌と菌糸圏から分離された微生物間の相互作用における温度の影響 于 遥¹・田森悠美²・勝山千恵¹・中村 仁³・久我ゆかり¹ (¹広大院総科・²広大院総科・³農研機構果樹茶部門)</p>	<p>428 座長 小林括平 ビート西部萎黄ウイルス (BWYV) に対する抵抗性育種素材の開発 ○上田重文¹・黒田洋輔¹・岡崎和之¹・松平洋明¹・田口和憲¹・高橋宙之² (¹農研機構・北農研・²農研機構・本部)</p>	<p>528 座長 石賀康博 青枯病の化学防除を志向したクオラムクエンチング法の開発 ●吉原彩華¹・嶋谷美香¹・曳地康史²・甲斐建次¹ (¹阪府大院・生命環境・²高知大・農)</p>
<p>329 座長 瀬尾茂美 発光細菌を用いた遊離サリチル酸のハイスループット定量系について 柴田詩織¹・○田中景子²・養田恵美子¹・梶 翔太¹・小倉里江子¹・尾形 信一¹・平塚和之¹ (¹横国大院環情・²横国大理工)</p> <p>330 ジャスモン酸応答性遺伝子の発現を誘導する新規化合物の特徴づけについて ○小倉里江子¹・阿部義弘¹・根岸紘生²・平塚和之¹ (¹横国大院環情・²横国大理工)</p>	<p>429 圃場検定および CAP11 SNP のジェノタイプ解析による小麦遺伝資源の萎縮病抵抗性評価 ○堀田治邦¹・鈴木孝子²・鈴木千賀¹・林 和希¹・山下陽子¹・小倉玲奈¹ (¹道総研中央農試・²北海道庁)</p> <p>430 タバコモザイクウイルスエリシターに対する応答における抵抗性遺伝子 <i>N</i> のタンパク質とイントロンの役割 ●多久和夫¹・岡村 篤²・佐々木信光²・丹生谷博² (¹東京農工大・院・²東京農工大・遺伝子)</p>	<p>529 トマト細菌性病害に対する各種消毒資材の二次伝染抑制効果 ○渡辺秀樹¹・村元靖典¹・棚橋寿彦¹・中保一浩² (¹岐阜農技セ・²農研機構・中央農研)</p> <p>530 GABA は <i>Pseudomonas protegens</i> の浮遊状態を促進する ○竹内香純¹・Dieter Haas² (¹農研機構・生物機能・²ローザンヌ大)</p>

■第2日目午前

4月27日(木)	第1会場	第2会場
11:54	<p>131 エンドウならびにシロイヌナズナにおける PAMP 誘導性細胞外オキシダティブースト反応の分子機構 片岡千香子¹・三木紅葉²・山崎史織²・松尾実佳¹・松井英謙^{1,2}・能年義輝^{1,2}・山本幹博^{1,2}・一瀬勇規^{1,2}・白石友紀^{1,2,3}・ ○豊田和弘^{1,2} (¹岡大農・²岡大院環生・³岡山生物研)</p>	<p>231 座長 安藤杉尋 ゲノムを切らずに書き換えるイネいもち病菌における新規ゲノム編集 ○荒添貴之¹・西田敬二¹・田畑麻由良¹・平岡大輝²・中馬いづみ²・土佐幸雄²・近藤昭彦¹ (¹神大院イノベーション・²神大院農)</p>
12:06	<p>132 ウリ類炭疽病菌 RSCO-09-1-2 株の強病原性に関する分子機構研究 ○井上喜博¹・Pamela Gan²・鳴坂義弘³・白須 賢²・高野義孝¹ (¹京大院農・²理研 CSRS・³岡山生物研)</p>	<p>232 CRISPR/Cas9 システムを利用した相同組換えによる多重遺伝子同時改変の試み ●飯田 藍¹・大和 澄¹・荒添貴之²・大里修一¹・桑田 茂¹ (¹明治大院農・²神戸大院イノベーション)</p>
12:18	<p>133 <i>Colletotrichum higginsianum</i> 系統間の大規模ゲノム構造変異 ○津島綾子^{1,2}・Pamela Gan²・熊倉直祐²・鳴坂真理³・高野義孝⁴・鳴坂義弘³・白須 賢^{1,2} (¹東大院理・²理研 CSRS・³岡山生物研・⁴京大院農)</p>	<p>233 イネ科植物いもち病菌における転移因子 MAGGY の特異的メチル化機構の解析 グエンクイット・プーバー・近藤友貴・ ○中屋敷均 (神戸大学農学研究科)</p>

第3会場	第4会場	第5会場
<p>331 ルシフェラーゼ融合タンパク質を用いたジャスモン酸経路因子の <i>in planta</i> モニタリング ●石田浩高・小倉里江子・平塚和之（横国大環情）</p>	<p>431 転写物の蓄積とウイルス感染抑制における抵抗性遺伝子 N のイントロンの役割 ●池田千紘¹・山家美歩¹・佐々木信光²・丹生谷博²（¹農工大・²農工大遺伝子）</p>	<p>531 <i>Microbacterium</i> 属細菌によるキノコ腐敗毒素 <i>tolaasin</i> 解毒機構 ●富田 駿¹・篠原弘亮²・横田健治¹（¹東京農大生応化・²東京農大農）</p>
<p>332 菌の脂肪酸代謝物（BMFA）による植物病害防除について（1） ○大野勝也（イビデン）</p>	<p>432 <i>Brome mosaic virus</i>（BMV）抵抗性に関わる NB-LRR 型イネ遺伝子の品種間比較 ●大矢卓明¹・新田浩志¹・徐 铨^{1,2}・安田加奈子¹・寺石政義¹・海道真典¹・奥野哲郎^{1,3}・高野義孝¹・奥本 裕¹・三瀬和之¹（¹京大院農・²瀋陽農大院農・³龍谷大農）</p>	<p>532 座長 古谷綾子 切り取り葉を用いたキウイフルーツかいよう病 <i>biovar3</i> に対する各品種の抵抗性評価 ○生咲 巖¹・遠藤温子¹・片岡郁雄²・秋光和也²・五十嵐千佳²・濱野康平²・福田哲生³・水谷亮介³・真鍋徹郎³（¹香川農試防除所・²香川大農・³香川府中果樹研）</p>
<p>333 菌の脂肪酸代謝物（BMFA）による植物病害防除について（2） ○野原偏弘・横田晃章・高田久美子・大野勝也（イビデン（株））</p>	<p>433 Studies to clarify the varietal differences on reaction to <i>Rice yellow mottle virus</i> at different inoculation timing ● Odongo, P.^{1,5}, Kajihara, K.², Kojima, N.^{1,3}, Tsuboi, T.⁴, Asea, G.¹, and Natsuaki, K.T.⁵（¹National Crops Resources Research Institute (NaCRRI)-Uganda, ²Former JOCV, ³Appropriate Agriculture Technology Co., ⁴JICA, ⁵GSA-Tokyo University of Agriculture）</p>	<p>533 機械学習によるイネもみ枯細菌病菌及びイネ苗立枯細菌病菌のタイプIIIエフェクターの同定 ○秋本千春¹・沼 寿隆²（¹農研機構生物機能利用研究部門・²農研機構 高度解析センター）</p>

■第2日目午後

4月27日(木)	第1会場	第2会場
13:30	<p>134 座長 西澤洋子 イネいもち病抵抗性遺伝子 <i>Pita-2</i> 及び <i>Pi19</i> は新規な構造のタンパク質をコードする ○高橋 章・林 長生・廣近洋彦 (農研機構生物機能部門)</p>	<p>234 座長 佐藤 衛 トマト葉かび病菌の殺菌剤耐性検定 ○窪田昌春¹・染谷信孝¹・田村 収² (¹農研機構野花研・²徳島農総技支セ)</p>
13:42	<p>135 <i>Pb1</i> 抵抗性は少なくとも4つの QTL に依存する ○井上晴彦・福岡修一・水林達実・林長生 (農研機構)</p>	<p>235 三重県における新規 SDHI 剤フルオピラム耐性灰色かび病菌の発生確認 ○川上 拓・鈴木啓史・黒田克利 (三重農研)</p>
13:54	<p>136 窒素施肥によるイネのいもち病発病度は圃場抵抗性遺伝子に依存する ○鬼頭英樹¹・光永貴之² (¹農研機構・本部・²農研機構・中央農研)</p>	<p>236 高知県の冬春栽培キュウリにおけるボスカリド耐性褐斑病菌の遺伝子診断法 ○山崎睦子・岡田知之 (高知農技セ)</p>
14:06	<p>137 イネのいもち病圃場抵抗性遺伝子の葉齢による発病抑制効果の違い ○安田伸子・光永貴之 (農研機構・中央農研)</p>	<p>237 高知県のナスすすかび病耐性菌における同系統薬剤への交差耐性 ○岡田知之・矢野和孝 (高知県農業技術センター)</p>
14:18	<p>138 植物病原糸状菌の二次代謝産物テヌアゾン酸は宿主の抵抗性を誘導する ○柏 毅・本山高幸・長田裕之 (理研 CSRS)</p>	<p>238 【講演取り下げ】</p>
14:30	<p>139 小型草本モデル植物ミナトカモジグサを用いた紋枯病抵抗性系統の探索とその特徴付け ○香西雄介^{1,2,3}・持田恵一^{1,3,4}・恩田義彦^{1,3}・能年義輝² (¹理研 CSRS・²岡大院環境生命・³横市大木原研・⁴岡大植物研)</p>	<p>239 座長 西村幸芳 静岡県で分離されたチャ炭疽病菌の DMI 剤に対する感受性 ○外側正之¹・芳賀 一²・古木孝典²・古橋実佳³ (¹静岡農技研茶研センター・²静岡防除所・³静岡農林大茶分校)</p>

第3会場	第4会場	第5会場
<p>334 座長 豊田和弘 希少糖の植物への作用 (44) : 希少糖をリン酸化する OsHXK6 の糖結合領域の解析 ●松平一志¹・加野彰人¹・馬越史奈¹・望月 進¹・大谷耕平²・福元健志¹・吉原明秀¹・何森 健¹・小原敏明³・重松由夫³・石田 豊⁴・神鳥成弘⁵・吉田裕美⁵・市村和也¹・五味剣二¹・秋光和也¹ (¹香川大農・²松谷化学工業・³三井化学アグロ・⁴四国総研・⁵香川大医)</p> <p>335 希少糖の植物への作用 (45) : <i>Itea</i> 属植物 (ズイナ) における希少糖 D-allose のリン酸化は hexokinase により引き起こされる ●辻 則夫・望月 進・大谷耕平・松平一志・島上卓也・吉原明秀・何森 健・市村和也・五味剣二・秋光和也 (香川大農)</p> <p>336 シロイヌナズナにおける植物-細菌相互作用現場の可視化 ○別役重之・石賀貴子・石賀康博・野村暢彦 (筑波大学生命環境系)</p> <p>337 PRR 複合体の新規因子 REAL1 は PAMP 情報伝達系を負に制御する ●後藤幸久^{1,2}・門田康弘¹・松井英譲^{1,4}・Jan Sklenar³・Paul Derbyshire³・Frank Menke³・中神弘史^{1,5}・Cyril Zipfel³・白須 賢^{1,2} (¹理研 CSRS・²東大院理・³英国セインズベリー研究所・⁴岡山大院環境生命科学・⁵マックスプランク植物育種学研究所)</p> <p>338 静岡県内で分離されたワサビ軟腐病菌の溶菌性バクテリオファージについて ●柏原美紗子¹・大津菜文²・青木雄太²・平田久笑² (¹静岡大院創造・²静岡大農)</p>	<p>434 座長 関根健太郎 アシベンゾラル-S-メチルは植物 RNA ウイルスの2つの異なる感染段階を抑制し、その効果はウイルス種により異なる ●松尾優希¹・鈴木健央¹・寺岡 徹²・有江 力¹・小松 健¹ (¹農工大院農・²農工大環安セ)</p> <p>435 アシベンゾラル S-メチルは植物における SGT の転写活性を抑制する ●小林優大¹・増山翔太²・萩原 毅²・松浦英幸²・増田 税²・竹下 稔¹ (¹宮崎大農・²北大院農)</p> <p>436 トマトモザイクウイルスの複製タンパク質と移行タンパク質はタバコの膜タンパク質レモリンの凝集体形成を引き起こす ●高島永太¹・佐々木信光²・丹生谷博² (¹農工大院農・²農工大遺伝子)</p> <p>437 ポティウイルスに対するキュウリ劣性抵抗性における Vps4 の関与 ●奥畑徹之¹・前田孟徳¹・森住 周¹・矢口裕之¹・嶋田拓実¹・大谷晃範¹・天野政史²・藤田佳克¹・井村喜之¹ (¹日大生物資源・²埼玉原種)</p> <p>438 トマト植物の全身壊疽誘導に必要な <i>Rehmannia mosaic virus</i> 日本株の移行タンパク質における領域 ●浜田拓弥・木場章範・曳地康史 (高知大農)</p>	<p>534 座長 中島雅己 エンドソーム-液胞融合過程を介したシロイヌナズナの感染防御応答の負の制御機構の解析 羽山大介¹・大滝 幹¹・筒井友和²・北畑信隆^{1,3}・花俣 繁³・来須孝光^{3,4}・海老根一生²・上田貴志²・○朽津和幸^{1,3} (¹東京理科大理工・²基生研細胞動態・³東京理科大イメージングフロンティア・⁴東京工科大応用生物)</p> <p>535 イネ白葉枯病菌の <i>hrp</i> 制御因子 HrpX の蓄積抑制に関与する LacI 型転写制御因子 XylR の制御様式 ○伊川有美・津下誠治 (京府大院生環)</p> <p>536 座長 木場章範 L-メチオニンによるトマト斑葉細菌病の抑制効果について ●山本優紀・齋藤まどか・阿久津克己・中島雅己 (茨城大農)</p> <p>537 ASGV 感染したカンキツ葉では <i>Xanthomonas citri</i> subsp. <i>citri</i> に対する感受性は高まる 岩井彩葉¹・柏原美紗子²・岡野夕香里³・○平田久笑¹ (¹静岡大院農・²静岡大院創造・³東大院農)</p> <p>538 青枯病菌 RipP1 はナス台木トルバムビガーに認識されるマイナーな非病原力エフェクターである ○向原隆文・中野真人・小田賢司 (岡山生物研)</p> <p>539 植物の自然免疫を抑制する青枯病菌エフェクターの同定と機能解析 ○中野真人・小田賢司・向原隆文 (岡山生物研)</p>
<p>339 座長 山田憲吾 【講演取り下げ】</p>	<p>439 座長 海道真典 翻訳開始因子 eIF4E アイソフォーム nCBP を欠損したシロイヌナズナでは <i>plantago asiatica mosaic virus</i> の感染が遅延する ●遊佐 礼¹・桂馬拓也¹・薦田 (萩原) 優香²・橋本将典¹・細江尚唯¹・渡邊聖斗¹・根津 修¹・山次康幸¹・難波成任¹ (¹東大院農・²酪農大農食環境)</p>	

■第2日目午後

4月27日(木)	第1会場	第2会場
14:42	140 座長 中屋敷均 キャベツ萎黄病菌 <i>Fusarium oxysporum</i> f. sp. <i>conglutinans</i> の生育および病原性に関与する小型染色体の水平伝播 ●鮎川 侑 ¹ ・小松 健 ² ・Martijn Rep ³ ・有江 力 ² (1農工大院連農・ ² 農工大院農・ ³ アムステルダム大)	240 青森県におけるリンゴ黒星病菌のDMI 剤に対する薬剤感受性の実態と変化 ○平山和幸・花岡朋絵・赤平知也 (青森産技セリんご研)
14:54	141 感染植物のプロテオーム・トランスクリプトーム解析によるメロンつる割病菌の病原性関連遺伝子の同定 ●范 環 ¹ ・松本敏幸 ¹ ・大空 岳 ¹ ・桑田啓子 ² ・森 仁志 ¹ ・花田耕介 ³ ・柘植尚志 ¹ (1名大院生農・ ² 名大ITbM・ ³ 九州工大生物情報)	241 イネいもち病菌の QoI 耐性変異ミトコンドリア定量系の構築 ●児玉 葵 ¹ ・阿部 歩 ¹ ・内橋嘉一 ² ・鬼頭英樹 ³ ・曾根輝雄 ¹ (1北大院農・ ² 兵庫農技総セ・ ³ 農研機構・本部)
15:06	142 Arabidopsis ERF71/73 genes are involved in the disease resistance against <i>Fusarium graminearum</i> ● Yelli, F., Kato, T., and Nishiuchi, T. (Kanazawa Univ., ASRC)	242 宮城県における QoI 剤耐性イネいもち病菌の分布拡大要因の推定 ○櫻田史彦 ¹ ・辻 英明 ¹ ・宮野法近 ¹ ・鈴木文彦 ² (1宮城古川農試・ ² 農研機構・中央農研)
15:18	143 Barley <i>HvGST13</i> and <i>HvGR2</i> Genes are Involved in the Detoxification of <i>Fusarium</i>-Producing Trichothecene Mycotoxin ● Wahibah, N.N. ¹ , Tamaoki, D. ¹ , Sato, K. ² , and Nishiuchi, T. ¹ (1Kanazawa Univ., ASRC, ² Okayama Univ)	243 イネいもち病菌の MBI-D 剤耐性変異の LAMP-FLP 法による検出 ○鈴木啓史 ¹ ・川上 拓 ¹ ・黒田克利 ¹ ・牧 文典 ² ・木谷雅和 ² ・鈴木文彦 ³ (1三重農研・ ² ニッポンジーン・ ³ 農研機構中央農研)
15:30	144 <i>Botrytis cinerea</i> の病原性発現におけるカタラーゼの役割について ●青木和香 ¹ ・國府田こごみ ^{1,2} ・中島雅己 ¹ ・阿久津克己 ¹ (1茨城大農・ ² 現 アグロカネショウ (株))	244 座長 菊原賢次 食品添加物によるカンキツ貯蔵病害の軽減効果 ○加藤光弘 ¹ ・石井香奈子 ² ・影山智津子 ¹ ・中村茂和 ¹ (1静岡農林研果研セ・ ² 静岡西部農林)
15:42	145 アスパラガス属野生種から分離された <i>Phomopsis</i> 属菌の病理観察と酵素生産性について 山根 南 ¹ ・池内隆夫 ² ・森 充隆 ² ・村上恭子 ² ・浦上敦子 ³ ・菅野 明 ⁴ ・尾崎行生 ¹ ・飯山和弘 ¹ ・古屋成人 ¹ ・○松元 賢 ⁵ (1九大院農・ ² 香川農試・ ³ 農研機構・ ⁴ 東北大院生命科学・ ⁵ 九大熱研セ)	245 【講演取り下げ】

第3会場	第4会場	第5会場
<p>340 ピラジンカルボキサミド系殺菌剤ピラジフルミド (パレード®) に関する研究 (第2報) —基本性能および作用特性— ○長谷部元宏・黒木信孝・中村貴弘・岡田 敦・馬場康治・菊武和彦・伯野史明 (日本農業株式会社)</p> <p>341 ピラジンカルボキサミド系殺菌剤ピラジフルミド (パレード®) に関する研究 (第3報) —各種生物種由来ミトコンドリアにおけるSDH阻害活性— ○岡田 敦・黒川典美・中村貴弘・山下真生 (日本農業株式会社)</p> <p>342 新規殺菌剤オキサチアピプロリン (ゾーベックエニケード®) に関する研究 (第2報) ジャガイモ疫病菌に対する作用特性 ○柴田亜紀彦¹・加本美穂子¹・内海誠¹・久池井豊² (¹丸和バイオケミカル株式会社・²デュボン・プロダクション・アグリサイエンス株式会社)</p>	<p>440 nCBP はポテックスウイルスの移行タンパク質 TGBp2 および TGBp3 の蓄積を介してウイルスの細胞間移行に寄与する ●細江尚唯¹・遊佐 礼¹・桂馬拓也¹・薦田 (萩原) 優香²・橋本将典¹・藤本祐司¹・関村紘代¹・山次康幸¹・難波成任¹ (¹東大院農・²酪農大農食環境)</p> <p>441 plantago asiatica mosaic virus に対するシロイヌナズナ劣性抵抗性遺伝子のファインマッピング ●渡邊聖斗¹・遊佐 礼¹・橋本将典¹・煉谷裕太郎^{1,2}・藤本祐司¹・吉田哲也¹・前島健作¹・山次康幸¹・難波成任¹ (¹東大院農・²宇都宮大農)</p> <p>442 plantago asiatica mosaic virus に対するシロイヌナズナ劣性抵抗性遺伝子 EXA1 の遺伝子構造解析 ●藤本祐司¹・橋本将典¹・遊佐 礼¹・煉谷裕太郎^{1,2}・吉田哲也¹・岡野夕香里¹・前島健作¹・山次康幸¹・難波成任¹ (¹東大院農・²宇都宮大農)</p>	<p>540 座長 藤川貴史 花器官の葉化誘導因子ファイロジェンは異なる複数の科の植物に葉化を誘導する ●岩淵 望¹・北沢優悟¹・鯉沼宏章¹・二條貴通¹・吉田哲也¹・吉川信幸²・前島健作¹・大島研郎³・難波成任¹ (¹東大院農・²岩手大農・³法政大植医)</p> <p>541 ファイロジェンは広範な植物の MADS ドメイン転写因子の分解を誘導する ○北沢優悟¹・岩淵 望¹・渡邊聖斗¹・鯉沼宏章¹・丹野和幸¹・二條貴通¹・前島健作¹・大島研郎²・難波成任¹ (¹東大院農・²法政大植医)</p> <p>542 イネ苗立枯細菌病菌 <i>Burkholderia plantarii</i> のトロポロン産生能に関わる遺伝子の探索 ●石曾根翔子¹・畔上耕児²・濱本宏¹・大島研郎¹ (¹法政大植医・²元農研機構 野菜茶研)</p>
<p>343 座長 楠 幹生 ナシ黒星病菌の DMI 剤耐性菌にみられる CYP51 遺伝子の変異 ○石井英夫^{1,2}・Hans J. Cools³・西村久美子¹・村上二郎² (¹農環研・²吉備国際大・³シンジェンタ)</p>	<p>443 シロイヌナズナの EXA1 欠損により plantago asiatica mosaic virus の感染は細胞レベルで阻害される ●吉田哲也¹・橋本将典¹・遊佐 礼¹・煉谷裕太郎^{1,2}・岩淵 望¹・根津 修¹・前島健作¹・山次康幸¹・難波成任¹ (¹東大院農・²宇都宮大農)</p>	<p>543 野菜類軟腐病菌 <i>Pectobacterium carotovorum</i> subsp. <i>odoriferum</i> の病原性因子の探索 ●高松由希菜・濱本 宏・大島研郎 (法政大植医)</p>
<p>344 福岡県の QoI 剤耐性イネいもち病菌発生ほ場における QoI 系本田散布剤と他系統薬剤を組合せた体系防除の効果検証 ○石井貴明・菊原賢次 (福岡県農林業総合試験場)</p>	<p>444 plantago asiatica mosaic virus の宿主因子 EXA1 および nCBP の欠損によるウイルス抵抗性スペクトラム ○橋本将典¹・桂馬拓也¹・煉谷裕太郎^{1,2}・遊佐 礼¹・細江尚唯¹・鯉沼宏章¹・根津 修¹・山次康幸¹・難波成任¹ (¹東大院農・²宇都宮大農)</p>	<p>544 座長 能年義輝 植物免疫シグナル伝達におけるシロイヌナズナ MKK3 上流因子の解析 永田雅也¹・松村美里¹・中村雅子¹・瀧澤 香²・松岡大介³・白須 賢²・市村和也¹ (¹香大院農・²理研 CSRS・³神大院農)</p>
<p>345 次亜塩素酸水によるイチゴ炭疽病の挿し苗伝染防止効果 ○森 充隆・西村文宏 (香川農試)</p>	<p>445 座長 望月知史 オオバコモザイクウイルス複製酵素の膜局在性に関わる両親媒性ヘリックスの特定と NMR による構造解析 ○小松 健¹・大島研郎²・渡部 暁³・木川隆則³・栃尾尚哉⁴・橋本将典⁵・山次康幸⁵・難波成任⁵ (¹農工大院農・²法政大植物医科・³理研 QBiC・⁴広島大院理・⁵東大院農)</p>	<p>545 MEK2^{DD} による HR 様細胞死を抑制する青枯病菌エフェクター clone42 の機能解析 ●小坂沙波¹・佐藤幹也¹・田口義人¹・吉岡博文²・秋光和也¹・市村和也¹ (¹香大院農・²名大院農)</p>

■第2日目午後

4月27日(木)	第1会場	第2会場
15:54	<p>146 座長 高野義孝 植物のリン欠乏適応応答を介した内生糸状菌 <i>Colletotrichum tofieldiae</i> の感染制御 ○晝間 敬^{1,4}・Bednarek Pawel²・田中啓介³・太治輝昭³・西條雄介^{1,4} (¹奈良先端大学・²ポーランド科学アカデミー・³東京農業大学・⁴JST さきがけ)</p>	<p>246 千葉県におけるナシ収穫直前のキャブタン水和剤による果面汚れ軽減を目的とした「まくぴか」展着剤の利用 ○金子洋平・福田 寛 (千葉農林総研)</p>
16:06	<p>147 リン枯渇条件における糸状菌感染に対する植物の免疫応答 ●田中 碧¹・李 泰洪¹・晝間敬^{1,2}・西條雄介^{1,2} (¹奈良先端大バイオサイエンス研究科・²さきがけ)</p>	<p>247 ナシ黒星病およびナシ黒斑病に対する亜リン酸肥料の発病抑制効果 田中 篤¹・○山田高之¹・三木祥平^{1,2} (¹鳥取園試・²現：奈良中部農林振興事務所)</p>
16:18	<p>148 ジャガイモへの病原性を失った <i>Botrytis cinerea</i> 変異株群のリシチン代謝能の解析 ●黒柳輝彦・小鹿 一・佐藤育男・千葉壮太郎・川北一人・竹本大吾 (名大院生農)</p>	<p>248 パインアップル小果腐敗病に対する有効薬剤の選抜と防除効果 (第2報) ○山城麻希¹・竹内誠人²・諸見里知絵²・大城 篤¹・安次富厚¹ (¹沖繩農研セ・²沖繩農研セ名護)</p>
16:30	<p>149 イネ科牧草共生菌 <i>Epichloë</i> エンドファイトの有用菌株作出法の確立：擬似有性生殖により作出した Hybrid 菌株の形質の安定性の解析 ●三浦里佳¹・磯部仁美¹・増中 章²・菅原幸哉²・佐藤育男¹・千葉壮太郎¹・川北一人¹・田中愛子¹・竹本大吾¹ (¹名大院生農・²農研機構)</p>	<p>249 座長 中畝良二 デイゴ (<i>Erythrina variegata</i>) 衰退枯死の原因は <i>Fusarium solani</i> 種複合体に属する糸状菌である ○黒田慶子¹・木原健雄¹・中馬いづみ¹・村上 翼¹・高階空也¹・平岡大輝¹・亀山統一² (¹神大院農・²琉大農)</p>
16:42	<p>150 転写補助因子 SNI1 と NPR1 による WRKY 転写因子を介した SA 応答性遺伝子発現制御機構の解析 清水琴恵¹・野元美佳¹・○福井大和¹・板谷知健¹・森 毅¹・時澤睦朋²・山本義治²・塚越啓央^{3,4}・多田安臣^{1,5} (¹名大院理・²岐大応生・³名城大農・⁴JST さきがけ・⁵名大遺伝子)</p>	<p>250 長崎県における秋作ジャガイモの欠株に関与する <i>Fusarium</i> 属菌 ●大澤 央¹・坂本 悠²・秋野聖之¹・近藤則夫¹ (¹北大院農・²長崎農技セ)</p>
16:54	<p>151 座長 三澤知央 <i>Podospaera leucotricha</i> によるモモうどんこ病の発生生態と防除 ○横澤志織・岡沢克彦・江口直樹 (長野県果樹試)</p>	<p>251 幼苗検定一最確値法による感染源ポテンシャル値 (IPU) は土壤中の病原菌 DNA 量よりも効果的に感染源量を推定する ○宍戸雅宏¹・國友映理子²・横山とも子²・牛尾進吾² (¹千葉大院園・²千葉農林総研セ)</p>

第3会場	第4会場	第5会場
<p>346 キュウリ地上部病害の発生様相に基づいた殺菌剤散布による発生軽減効果 ○大場淳司（宮城農園研）</p>	<p>446 オオバコモザイクウイルス複製酵素の両親媒性ヘリックスへの変異導入によるウイルス複製および膜局在性への影響 ●増島侑紀¹・鈴木健央¹・佐々木信光²・有江 力¹・小松 健¹（¹農工大院農・²農工大遺伝子）</p>	<p>546 ジャスモン酸によって誘導されるイネ白葉枯病抵抗機構において重要な転写因子 JMTF1 の役割 ●宇治雄也¹・藤井ゆみ²・桐生昌樹²・山田祥子²・宍戸穂高²・秋光和也^{1,2}・五味剣二^{1,2}（¹愛媛連大・農・²香川大農）</p>
<p>347 座長 矢野和孝 セイヨウナシ褐色斑点病に対する有効薬剤の選定（2） ○棚橋 恵¹・堀川拓未¹・佐藤秀明¹・藤巻伸一¹・大崎（岡）久美子²（¹新潟農総研園芸研・²鳥取大農）</p>	<p>447 <i>Red clover necrotic mosaic virus</i> (RCNMV) 移行タンパク質 (MP) のアラニン置換変異が細胞内局在とウイルスの細胞間移行に及ぼす影響の解析 北尾晃一・三瀬和之・高野義孝・○海道真典（京都大学）</p>	<p>547 ジャスモン酸シグナル制御因子である OsNINJA1 のイネ白葉枯病抵抗性機構における役割 ●柏原啓太¹・岡本祐季¹・宇治雄也²・谷口しづく²・秋光和也^{1,2}・五味剣二^{1,2}（¹香川大学農学部五味研究室・²愛媛連大・農）</p>
<p>348 新規殺菌剤トルプロカルブに関する研究（第7報）—トルプロカルブ処理イネいもち病菌分生子の病原性と生存能力— ○萩原寛之・安楽城夏子・櫻井誠也・明瀬智久・小原敏明（三井化学アグロ）</p>	<p>448 ラズベリー黄化ウイルス（RBDV）のゲノムにコードされる 1b 遺伝子の機能解析 ●松平昂士・志村拓哉・吉川信幸・磯貝雅道（岩手大農）</p>	<p>548 座長 五味剣二 Subtilisin-like protease は植物病原細菌に対する抵抗性を正に制御する ○浅井秀太^{1,2}・Jingni Wu³・津田賢一³・白須 賢²（¹JST さきがけ・²理研 CSRS・³マックスプランク研究所）</p>
<p>349 チオファネートメチル（T）・ジエトフェンカルブ（D）耐性キュウリ褐斑病菌に対する D・T 水和剤（D・T 剤）の防除効果 ○畔柳泰典・矢尾幸世（岡山農研）</p>	<p>449 ジャガイモ S ウイルス感染性 cDNA クローンの構築 ●李 莘・畑谷達児（北大院農）</p>	<p>549 植物免疫応答を抑制する低分子阻害剤の作用機構解析 ○石濱伸明¹・能年義輝²・崔 勝媛³・Ivana Saska¹・浅井秀太¹・白須 賢¹（¹理研 CSRS・²岡大院環境生命・³国際基督教大学・教養・自然科学）</p>
<p>350 ブロッコリー黒すす病に対する防除薬剤と防除適期の検討 ○西村文宏・森 充隆（香川農試）</p>	<p>450 <i>Tomato chlorosis virus</i> がコードするタンパク質の機能解析 ●益子嵩章¹・王 蔚芹²・西川尚志²・夏秋知英²（¹農工大院連農・²宇都宮大農）</p>	<p>550 HR 細胞死制御因子“MARK1”は Processing body と関連した機能を有する ○松井英讓^{1,2}・野村有子¹・玄 康洙¹・濱田隆宏³・渡邊雄一郎³・上田貴志^{4,5}・中神弘史^{1,6}（¹理研 CSRS・²岡山大院環生・³東大院総合文化・⁴基生研・⁵さきがけ・⁶マックスプランク研究所）</p>
<p>351 座長 神頭武嗣 新規殺菌剤イソフェタミド(ケンジャ®)に関する研究～第5報 浸透移行性の評価 ○西見周子・阿部ゆずか・三谷 滋（石原産業中研）</p>	<p>451 座長 石橋和大 2b タンパク質をトマトアスパーミィウイルスに置換したラッカセイ矮化ウイルスの <i>Nicotiana benthamiana</i> における壊死因子の解析 小田訓久¹・○井上創太¹・根津 修²・宇垣正志¹・鈴木 匡¹（¹東大院新領域・²東大院農）</p>	<p>551 flg22 に応答した MAP キナーゼの活性化を制御する MAPKKK の同定 ○山口公志・小林友華・深溝 慶・川崎 努（近大院農）</p>

■第2日目午後

4月27日(木)	第1会場	第2会場
17:06	<p>152 リンゴ樹上で越冬する炭疽病菌 <i>Colletotrichum acutatum</i> の生活環 ○猫塚修一¹・田中和明²・佐野輝男² (¹岩手農研・²弘前大農生)</p>	<p>252 LAMP法を用いた <i>Phytophthora nicotianae</i> の特異的検出 ○日恵野綾香¹・大坪佳代子¹・李明珠²・須賀晴久³・景山幸二¹ (¹岐大流域研セ・²中国陝西師範大・³岐大生命セ)</p>
17:18	<p>153 わが国における南根腐病の発生現状と宿主植物 ○佐橋憲生¹・秋庭満輝¹・石原 誠²・太田祐子³・升屋勇人⁴・服部 力¹・島田律子⁵・佐藤豊三⁶ (¹森林総研・²森林総研北海道・³日大生物資源科学・⁴森林総研東北・⁵東京都・⁶農研機構遺資セ)</p>	<p>253 国内産レタス根腐病菌の遺伝的性状について ●大谷將之¹・宮川貴光¹・渡辺賢太²・古澤安紀子^{3,4}・三木静恵³・伊藤瑞穂⁴・宇佐見俊行¹ (¹千葉大院園・²茨城農総セ園研・³群馬農技セ・⁴株式会社GRA)</p>
17:30	<p>154 大阪湾海岸のアオサ属藻類からのノリ赤腐病菌 <i>Pythium porphyrae</i> の分離 ●中川章吾¹・田中淳和¹・川村嘉広²・三根崇幸²・東條元昭¹ (¹大阪府大院生環・²佐賀有明水産振興セ)</p>	<p>254 秋田県南部のリンゴ収穫果に多発した小黑斑について ○佐藤 裕 (秋田果試)</p>
17:42	<p>155 座長 竹本大吾 ユビキチンリガーゼ PUB4 は CERK1 によるリン酸化修飾を受けて活性化する ○出崎能丈・小泉春樹・松井紗樹・鈴木丸陽・三浦駿希・石橋裕子・紀藤圭治・渋谷直人・賀来華江 (明治大農・生命科学)</p>	<p>255 座長 根岸寛光 バラ切り花の灰色かび病に対する電解次亜塩素酸水を用いたドライ処理法の検討 ●谷中沙妃¹・森田修介²・菅原 敬³・小林 隆⁴・西沢 隆⁴・長谷 修⁴ (¹山形大院農・²東芝・³山形防除所庄内・⁴山形大農)</p>
17:54	<p>156 ウリ類炭疽病菌の転写因子遺伝子 <i>MTF4</i> は植物シグナル認識を介した付着器形成および病原性に関与する ●小玉紗代¹・西内 巧²・久保康之¹ (¹京府大院生環・²金沢大・学際センター)</p>	<p>256 酸性電解水ドライ処理による収穫後オクラ等の <i>Botrytis cinerea</i> の発病抑制 ○中西善裕¹・森田修介²・上之蘭茂¹・田川彰男¹ (¹鹿児島大隅加工セ・²東芝)</p>

第3会場	第4会場	第5会場
<p>352 新規殺菌剤イソフェタミド(ケンジャ®)に関する研究～第6報 多剤耐性菌への効果 ○阿部ゆずか・小森冨香・三谷 滋 (石原産業(株)中研)</p>	<p>452 誘導型カリフラワーモザイクウイルスSav 遺伝子発現シロイヌナズナが示す成長抑制における遺伝子発現の網羅的解析 ●寺田 忍¹・ボホール サチン アショーク¹・田中啓介²・坂本 光²・関根健太郎³・八丈野孝¹・山岡直人¹・西口正通¹・小林括平¹ (1愛媛大農・²東京農大・³琉球大農)</p>	<p>552 座長 向原隆文 青枯病菌 OE1-1 株のクオラムセンシングに関わる新奇センサーカイネース遺伝子の同定 ●林 一沙¹・石川詩歩¹・森 友花¹・木場章範¹・大西浩平²・甲斐建次³・曳地康史¹ (1高知大農・²高知大総研セ・³阪府大院生命環境)</p>
<p>353 病原体に対する植物の抵抗性を向上させる化合物の作用機構の解析 ○北畑信隆^{1,2}・吉田亜祐美¹・吉川岳史¹・石賀康博³・来須孝光⁴・平塚和之⁵・浅見忠男⁶・朽津和幸^{1,2} (1東京理科大学理工・²東京理科大学 IFC・³筑波大生命環境・⁴東京工科大大応用生物・⁵横浜国大・⁶東大院農生科)</p>	<p>453 Recovery of the virulence of large-scale synonymously mutated Cucumber mosaic virus during passage inoculation ○Mochizuki, T.^{1,2}, and Roossinck, M.J.² (1Osaka Pref. Univ., ²Penn. State Univ.)</p>	<p>553 ラルフラノン化合物は、青枯病菌 OE1-1 株のクオラムセンシングのフィードバック制御に関する 森 友花¹・○石川詩歩¹・林 一沙¹・木場章範¹・大西浩平²・甲斐建次³・曳地康史¹ (1高知大農・²高知大総研セ・³阪府大院生命環境)</p>
<p>354 茨城県におけるベノミル耐性サツマイモつる割病菌の発生 ○島田 峻¹・赤井浩太郎²・西宮智美¹・渡邊 健¹・有江 力² (1茨城農総セ農研・²農工大院農)</p>	<p>454 コムギ縮萎縮ウイルスの病原型 I 型と II 型の違いに関わるゲノム領域の探索 ○大木健広¹・笹谷孝英²・白子幸男³・眞岡哲夫¹ (1農研機構北海道農研・²農研機構本部・³東大)</p>	<p>554 ラルフラノン化合物は、クオラムセンシングにより阻害される青枯病菌 OE1-1 株のマッシュルーム型バイオフィルム形成を抑制する 森 友花¹・細井勇希¹・石川詩歩¹・林 一沙¹・浅井 遊¹・木場章範¹・大西浩平²・甲斐建次³・○曳地康史¹ (1高知大農・²高知大総研セ・³阪府大院生命環境)</p>
<p>355 Biological characteristic of novel Broad-spectrum SDHI “Isopyrazam” (1) The unique chemical & biological property ○Tan, M., and Nakajima, Y. (Syngenta Japan K.K.)</p>	<p>455 Upregulation of pathogenesis-related protein genes after the induced silencing of chloroplast protein genes in transgenic tobacco Bhor, S.A.¹, Tateda, C.², Mochizuki, T.³, Sekine, K.⁴, Yaeno, T.^{1,5}, Yamaoka, N.^{1,5}, Nishiguchi, M.⁵, and ○Kobayashi, K.^{1,5} (1UGAS-Ehime Univ., ²Iwate Biotech. Res. Centr., ³Osaka Pref. Univ., ⁴Univ. Ryukyus, ⁵Ehime Univ.)</p>	<p>555 青枯病菌 TonB-dependent receptor の機能解析 ○大西浩平・渡邊諒介・木場章範・曳地康史 (高知大学)</p>
<p>356 新規 SDHI 殺菌剤イソピラザムの生物特性 (2) ーネクスター® フロアブルの各種病害に対する効果特性ー ○大田原真祐・深見泰弘・蓮沼奈香子・富江哲也 (日産化学工業株式会社)</p>	<p>456 トマトアスパルミィウイルスの <i>Nicotiana glutinosa</i> に壊死斑を誘導する因子の解析 ○田村美里・井上創太・宇垣正志・鈴木 匡 (東大院新領域)</p>	<p>556 座長 市村和也 非病原性 <i>Rhizobium vitis</i> VAR03-1 株によるブドウ根頭がんしゅ病の病原性関連遺伝子の発現抑制 ●齊藤 晶¹・渡邊 恵¹・松井英譲¹・山本幹博¹・一瀬勇規¹・豊田和弘¹・川口 章²・能年義輝¹ (1岡山農大・²農研機構西日本農研)</p>

■第2日目午後

4月27日(木)	第1会場	第2会場
18:06	<p>157 LysM 型受容体様キナーゼ CERK1 の自己リン酸化部位 Y428 はキナーゼの活性化を通じてキチン応答を制御する ●鈴木丸陽・渡邊 巧・出崎能丈・渋谷直人・賀来華江(明治大 農 生命科学)</p>	<p>257 微酸性電解水による浸種工程におけるイネばか苗病の感染抑制効果 ○本田浩央¹・野田崇啓²・森田修介³ (¹山形農総研セ・²農研機構革新工学セ・³(株) 東芝)</p>
18:18	<p>158 Single molecule signaling analysis of CDPK kinase and the suppressor signals of Phytophthora in HR in plant cell ○ Furuichi, N.^{1,2,3}, and Ohta, M.⁴ (¹Furuichi Insti., ²Science Advisory Board Mem, ³Fulbright Senior Prof., ⁴Ohta Insitute)</p>	<p>258 セラミック多層電極を用いたプラズマによるアブラナ科黒腐病菌の殺菌 ○西岡輝美¹・西村幸芳¹・三沢達也²・岡田清嗣¹ (¹大阪環農水研・²佐賀大院工)</p>

第3会場	第4会場	第5会場
		<p>557 <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>tomato</i> DC3000 の AefR 転写因子は本菌の病原力を負に制御する ●石賀貴子¹・石賀康博¹・清川達則²・丸山 望²・別役重之¹・一瀬勇規³・野村暢彦¹ (¹筑波大生命環境・²筑波大院生命環境・³岡大院環境生命)</p> <p>558 Chemotaxis of <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>tabaci</i> toward several compounds that exist in plant ●Tumewu, S.A.¹, Yamada, H.², Sugihara, Y.², Matsui, H.¹, Yamamoto, M.¹, Noutoshi, Y.¹, Toyoda, K.¹, and Ichinose, Y.¹ (¹Grad. Sch. Environ. & Life Sci., Okayama Univ., ²Faculty of Agriculture, Okayama Univ.)</p>

■第3日目午前

4月28日(金)	第1会場	第2会場
9:30	<p>159 座長 松井英謙 宿主特異的 ACR 毒素の非感受性に関わる AmBP30 複合体構成タンパク質候補群間の相互作用解析 ●島上卓也・大谷耕平・小川実可子・西田壮志・安田晋輔・西村 聡・三宅ちか子・多々野智・小野由紀子・望月進・市村和也・五味剣二・秋光和也（香川大農）</p>	<p>259 座長 森 充隆 ブロッコリー苗立枯病（リゾクトニア菌）およびレタス白絹病に対する各種薬剤のセルトレイ灌注処理の効果 ○楠 幹生（香川県農業試験場病害虫防除所）</p>
9:42	<p>160 <i>Alternaria alternata</i> タンゼリン系統が生産する宿主特異的 ACT 毒素の生合成経路における ACTT1 の役割 ●田中佐和¹・勝本真衣¹・松平一志¹・島上卓也¹・増中 章¹・宮本蓉子¹・大谷耕平¹・望月 進¹・柘植尚志²・山本幹博³・市村和也¹・五味剣二¹・秋光和也¹（¹香川大農・²名大院生農・³岡山大農）</p>	<p>260 オオムギ網斑病に対する金属銀水和剤による種子消毒の防除効果 ○宇山啓太・長谷川優（鳥取農試）</p>
9:54	<p>161 カンキツ黒腐病菌 <i>Alternaria citri</i> における異化代謝産物抑制に対する各種希少糖の作用 ●石原亜由美¹・望月 進¹・大谷耕平²・一色淳憲¹・何森 健¹・吉原明秀¹・加藤 寛¹・市村和也¹・五味剣二¹・秋光和也¹（¹香川大農・²松谷化学工業）</p>	<p>261 走行型超音波発振装置を用いたイチゴうどんこ病発病抑制効果 ○有元倫子¹・下川陽一¹・山本雅則¹・江波義成¹・天野 裕²・岩ヶ谷照義²・後藤昭広²・吉田隆延³・川上大地⁴・有江 力⁴（¹滋賀県農業技術振興センター・²(株)プレテック・³農研機構・革新工学セ・⁴農工大院連農）</p>
10:06	<p>162 トマト野生種におけるトマトアルターナリア茎枯病菌抵抗性遺伝子 <i>Asc1</i> の欠失は AAL 毒素感受性に関与する 澄川敦馬¹・○永井瞭汰¹・吾郷亜希¹・赤木靖典²・板井章浩³・有江 力⁴・児玉基一朗²（¹鳥取大農・²鳥取連大・³京都府大農・⁴農工大院農）</p>	<p>262 座長 森山裕充 ビワ白紋羽病罹病樹に対する 45℃温水点滴処理の治療効果 ○内川敬介¹・古賀敬一²・中村 仁³（¹長崎農技セ果樹・²長崎農林部・³農研機構果樹茶部門）</p>
10:18	<p>163 座長 高原浩之 RNA 分解ドメインを持つエフェクター SRN はウリ類炭疽病菌の病原性に関与する ○熊倉直祐¹・Suthitar Singkaravanit Ogawa²・Pamela Gan¹・津島綾子^{1,4}・鳴坂真理³・鳴坂義弘³・高野義孝²・白須 賢^{1,4}（¹理研 CSRS・²京大院農・³岡山生物研・⁴東大院理）</p>	<p>263 <i>Trichoderma harzianum</i> を含有する土壌改良資材と温水処理との併用による白紋羽病菌の衰退および真菌の推移 ○高橋真秀¹・勝山千恵²・蔦木康徳¹・久我ゆかり²・中村 仁³（¹千葉農林総研・²広島大院総科・³農研機構果樹茶部門）</p>

第3会場	第4会場	第5会場
<p>359 座長 宇佐見俊行 新潟県における糖含有珪藻土を用いた 土壌還元消毒法によるトマト青枯病の 防除効果 ○前田征之¹・太田沙由理¹・古川勇一 郎¹・白鳥 豊¹・原澤良栄¹・中保一 浩² (1新潟農総研・2農研機構中央農研)</p>	<p>459 座長 中原健二 キク矮化ウイルス抵抗性のキクタニ ギクの探索 ○松下陽介 (農研機構・野花研)</p>	<p>559 座長 上田重文 Spread of <i>Sri Lankan cassava mosaic virus</i> in Cambodia ○Uke, A.¹, Seb, V.², Iv, P.³, Ugaki, M.¹, and Natsuaki, K.T.⁴ (1Univ. Tokyo, 2Univ. Battambang, 3GDA Cambodia, 4Tokyo Univ. Agric.)</p>
<p>360 岐阜県における糖含有珪藻土を用いた 土壌還元消毒法の有効性評価 ○村元靖典¹・渡辺秀樹¹・棚橋寿彦¹・ 中保一浩² (1岐阜農技セ・2農研機構・ 中央農研)</p>	<p>460 ポスピウイルスのウイルス感染花 粉による水平伝染の可能性 ○柳澤広宣^{1,2}・松下陽介³ (1農研機構 中央農業研究センター・2岩手連合大 学院・3農研機構 野菜花き研究部門)</p>	<p>560 <i>Olpidium virulentus</i> の遊走子放出に及 ぼす土壌 pH の影響 ○池田健一¹・井上 海¹・岩本 豊²・ 相野公孝²・松浦克成²・前川和正²・ 中屋敷均¹・西口真嗣² (1神大院農・ 2兵庫農技総セ)</p>
<p>361 トマトの各種土壌病害に対する新規土 壌還元消毒資材「糖含有珪藻土」の効 果 ○大谷洋子¹・中保一浩² (1和歌山農試・ 2農研機構中央農研)</p>	<p>461 ダリアに感染しているジャガイモやせ いもウイルス各種クローンのトマト での病原性とゲノム変異 ○藤 晋一・西村真帆・戸田 武・古 屋廣光 (秋田県大生資)</p>	<p>561 土壌からのミラフィオリレタスビク ベインウイルスの qRT-PCR 法による 検出 ●井上 海¹・松浦克成²・岩本 豊²・ 西口真嗣²・池田健一¹・中屋敷均¹ (1神戸大院農・2兵庫農総セ)</p>
<p>362 千葉県における糖含有珪藻土を用いた 土壌還元消毒のサツマイモネコブセン チュウに対する効果 ○鐘ヶ江良彦・國友映理子・武田 藍・ 福田 寛 (千葉農林総研)</p>	<p>462 ジャガイモやせいもウイルスのトマ トに対する弱毒性を特徴づける塩基変 異の評価 ○対馬大希^{1,2}・佐野輝男¹ (1弘大農生・ 2岩手連大)</p>	<p>562 Occurrence and molecular characterization of begomoviruses infecting eggplant and pepper plants in Indonesia ●Wilisiani, F.¹, Morita, Y.⁴, Okawara, A.⁴, Mashiko, T.¹, Wang, W.², Hartono, S.³, Suzuki, T.², Nishigawa, H.^{1,2}, and Natsuaki, T.^{1,2} (1TUAT, 2Utsunomiya Univ., 3Gajah Mada Univ., 4Utsunomiya Chuo GSHS)</p>
<p>363 新規資材糖含有珪藻土を用いた土壌還 元消毒法における細菌群集の変化 ○李 哲揆¹・飯田敏也¹・角野晶大²・ 三澤知央²・加賀友紀子³・前田征之⁴・ 川部眞登⁵・松田絵里子⁶・大谷洋子⁷・ 村元靖典⁸・渡辺秀樹⁸・中保一浩⁹・ 大熊盛也¹ (1理研 BRC・2道総研・道 南農試・3青森野菜研・4新潟農総研・ 5富山農総セ園研・6石川農林総研・ 7和歌山農試・8岐阜農技セ・9農研機 構中央農研)</p>	<p>463 リンゴゆず果ウイルスホップ分離株 及びカキ分離株のトマトでの病原性解 析 ●鈴木貴大¹・藤林美里¹・種田晃人²・ 畑谷達児³・佐野輝男¹ (1弘大農生・ 2弘大院理工・3北大院農)</p>	<p>563 座長 佐々木信光 リンゴ小球形潜在ウイルス (ALSV) ベクターで世代促進したリンドウ由来 の後代実生からは ALSV は検出され ない ●鎌田和樹・山岸紀子・磯貝雅道・吉 川信幸 (岩手大農)</p>

■第3日目午前

4月28日(金)	第1会場	第2会場
10:30	<p>164 ウリ類炭疽病菌における CoPpt1 は非選択的オートファジー関連因子 CoAtg8 と共局在し病原性に関与する ●梶河直起・深田史美・久保康之（京府大院・生環）</p>	<p>264 モモ樹の耐熱性と低温水の点滴処理による白紋羽病菌の死滅効果 金谷寛子¹・○妹尾真里¹・桐野菜美子¹・矢尾幸世¹・谷名光治¹・中村 仁² (¹岡山農研・²農研機構果樹茶部門)</p>
10:42	<p>165 ウリ類炭疽病菌のホメオボックス転写因子 CoHox4 は栄養菌糸生育, 分生胞子の形態, 付着器形成および病原性に関与する ●小幡善也・横山 綾・泉津弘佑・入江俊一・鈴木一実（滋賀県大環境）</p>	<p>265 イネから分離された <i>Pantoea ananatis</i> CTB1206 株による植物病原糸状菌の胞子発芽抑制 ○長谷川優（鳥取農試）</p>
10:54	<p>166 アブラナ科炭疽病菌のストレス応答制御因子 <i>ChWHI2</i> は病原性に必須であり, 宿主植物の防御応答に関与する ●長田暢洋¹・原田 賢²・奥野哲郎²・西内 巧³・久保康之¹ (¹京府大院・生環・²龍谷大・農学・³金沢大院・学際セ)</p>	<p>266 トマト葉かび病の発病を抑制する菌寄生菌 <i>Dicyma pulvinata</i> ○飯田祐一郎¹・池田健太郎²・酒井宏³・窪田昌春¹ (¹農研機構・²群馬県庁・³群馬農技セ)</p>
11:06	<p>167 Studies on post-invasive nonhost resistance of <i>Arabidopsis thaliana</i> against a mulberry pathogen <i>Colletotrichum gloeosporioides</i> ○ Kosaka, A.¹, Bednarek, P.², Ishikawa, A.³, Kaido, M.¹, Mise, K.¹, and Takano, Y.¹ (¹Grad. Sch. Agric., Kyoto Univ., ²Polish Academy of Sciences, ³Dept. Biosci. Fukui Pref. Univ.)</p>	<p>267 スギ花粉の飛散を抑制する <i>Sydowia japonica</i> の伝染機構 ○高橋由紀子・窪野高徳（森林総研）</p>
11:18	<p>168 Inappropriate expression of NLP effector impairs <i>Colletotrichum</i> infection on cucurbits via recognition of its C-terminal region ○ Singkaravanit-Ogawa, S.¹, Nur Sabrina, A.A.¹, Ikeda, K.¹, Tanaka, S.¹, Inoue, Y.¹, Kaido, M.¹, Mise, K.¹, Narusaka, Y.², Shirasu, K.³, and Takano, Y.¹ (¹Grad. Sch. Agric., Kyoto Univ., ²RIBS Okayama, ³CSRS RIKEN)</p>	
11:30	<p>169 座長 池田健一 ダイズ黒根腐病耐病性変動の解析 ○黒田智久・藤田与一・堀 武志・川上 修（新潟農総研作物研）</p>	

第3会場	第4会場	第5会場
<p>364 座長 小坂橋基夫 生物的土壌消毒における消毒資材植物の細断同時鋤き込み機の開発 ○竹原利明¹・豊田和範²・佐藤泰三³・埴田宗吾⁴・高橋仁康¹・石岡 徹¹ (¹農研機構西日本農研・²マメトラ四国機器(株)・³徳島農総技支セ・⁴マメトラ農機(株))</p>	<p>464 トマトのDCL2とDCL4はジャガイモやせいもウイルス(PSTVd)の初期増殖と病徴発現を抑制する ●池田 翔¹・葛西厚史¹・種田晃人²・奥田真生¹・鈴木貴大¹・佐野輝男¹ (¹弘大農生・²弘大院理工)</p>	<p>564 除去可能な植物ウイルスベクターの開発 中条哲也・吉川 学・有賀裕剛・遠藤真咲・土岐精一・○石橋和大(農研機構・生物機能利用研究部門)</p>
<p>365 レタスビッグベイン病に対する露地型土壌還元消毒における省力フィルム被覆・除去機の開発 ○佐藤泰三¹・米本謙悟¹・田村 收¹・山下 浩¹・本荘絵未²・河合正志²・陶山 純²・石岡 徹³・竹原利明³ (¹徳島農総技支セ・²みのる産業(株)・³農研機構・西日本農研)</p>	<p>465 座長 山次康幸 ハクサンハタザオから単離したキュウリモザイクウイルスの性状解析 ○高橋英樹・吉澤 峻・宮下脩平・安藤杉尋(東北大院農)</p>	<p>565 リンゴ小球形潜在ウイルス(ALSV)ベクターのリンドウ育種への応用 ○山岸紀子^{1,2}・鎌田和樹¹・日影孝志²・吉川信幸¹(¹岩手大農・²八幡平市花き研究開発セ)</p>
<p>366 露地型土壌還元消毒後のレタスビッグベイン病発病抑制方法 ○米本謙悟¹・佐藤泰三¹・田村 收¹・山下 浩¹・竹原利明²(¹徳島農総技支セ・²農研機構西日本農研)</p>	<p>466 EMS変異誘発シロイヌナズナ系統におけるNB-LRRクラス抵抗性遺伝子RCY1プロモーター領域シトシンメチル化とCMV抵抗性レベル低下の相関 ○佐藤有希代・宮下脩平・安藤杉尋・高橋英樹(東北大院農)</p>	<p>566 ハバネロのアミノトランスフェラーゼ(pAMT)のウイルス誘導ジーンサイレンシング(VIGS)がカブサイシンとカプシエイト合成に及ぼす影響 ○李 春江¹・及川夏綺¹・平野博人²・吉川信幸¹(¹岩手大農・²味の素(株))</p>
<p>367 ダゾメット粉粒剤のネギ黒腐菌核病生存菌核数への影響 ○斉藤千温¹・鈴木幹彦¹・墨岡宏紀² (¹静岡農林研・²静岡中遠農林)</p>	<p>467 ヒストン脱メチル化酵素変異体Iddiにおけるキュウリモザイクウイルス抵抗性の解析 ●小関彩恵子¹・宮下脩平²・高橋英樹²・安藤杉尋²(¹東北大農・²東北大院農)</p>	<p>567 リンゴ小球形潜在ウイルス(ALSV)ベクターを用いたヒロハマンテマ遺伝子機能解析系の確立 ○藤田尚子¹・山岸紀子²・佐々木舞衣¹・有江 力¹・吉川信幸²・小松 健¹(¹農工大・²岩手大農)</p>
	<p>468 RNAサイレンシング関連因子AGO2遺伝子のプライミングにおけるmiRNAの役割 ○安藤杉尋・大谷 峻・宮下脩平・高橋英樹(東北大院農)</p>	<p>568 座長 八重樫元 日本産イネいもち病菌に感染するMagnaporthe oryzae virus 2の遺伝的多様性と宿主に与える影響 ●大鷲友多¹・相原光宏¹・福原敏行¹・平八重一之³・有江 力¹・寺岡 徹²・小松 健¹(¹農工大農・²農工大環安セ・³農研機構・九沖農研)</p>
	<p>469 キュウリモザイクウイルスの欠失変異パターンの解析 ●本多宗一郎¹・安藤杉尋²・高橋英樹²・宮下脩平²(¹東北大農・²東北大院農)</p>	<p>569 Comparison of two related mycoreoviruses reveals natural variation of antiviral RNA silencing in the chestnut blight fungus Aulia, A.¹, Andika, I.B.¹, Hillman, B.I.², and ○ Suzuki, N.¹(¹IPSR, Okayama Univ, ²Rutgers Univ)</p>

■第3日目午前

4月28日(金)	第1会場	第2会場
11:42	<p>170 東山 231 号が保有するダイズ茎疫病抵抗性遺伝子 ○高橋真実¹・山田哲也²・山田直弘³・赤松 創¹・高橋浩司²・高橋 幹² (¹農研機構 中央農研・²農研機構 作物開発センター・³長野野花試)</p>	
11:54	<p>171 ダイズ茎疫病圃場抵抗性に関する QTL の導入効果と有望系統の特性把握 ○杉本琢真¹・牛尾昭浩¹・菅野正治⁵・姜 昌杰⁵・田口(塩原)文緒²・佐山貴司²・大木信彦³・小松邦彦⁴・羽鹿牧太²・石本正男² (¹兵庫県立農林水産技術総合センター・²次世代作物開発研究センター・³九州沖縄農業研究センター・⁴西日本農業研究センター・⁵生物機能利用研究部門)</p>	
12:06	<p>172 <i>Brassica rapa</i> L. におけるアブラナ科植物白さび病抵抗性遺伝子の探索と検出 ●西本良太・宮路直実・藤本 龍・土佐幸雄・中馬いづみ (神戸大院農)</p>	

第3会場	第4会場	第5会場
	<p>470 植物ウイルスの多数決型意思決定システム ○宮下脩平・安藤杉尋・高橋英樹（東北大院農）</p>	<p>570 アカクロバーうどんこ病菌より見いだされた新規トティウイルス ○近藤秀樹¹・久野 昌¹・千葉壮太郎²・鈴木信弘¹（¹岡山大・植物研・²名古屋大・ASCI・生命農学）</p> <p>571 本邦産アスパラガス疫病菌から検出されたエンデルナウイルスのゲノム構造解析 ○内田景子¹・高橋優実²・岡田 亮^{2,5}・福原敏行²・有江 力³・寺岡 徹³・植松清次⁴・森山裕允²（¹農工大院連農・²農工大院農 細胞分子・³植物病理・⁴千葉農林総研暖地・⁵茨城園研）</p> <p>572 Fusarium boothii BL13 分離株に存在する 3 種の dsRNA 成分の生物学的性状 ○水谷行善¹・須賀晴久²・鈴木信弘³・千葉壮太郎⁴（¹名古屋大学大学院生命農学研究科・²岐大生命セ・³岡山大・植物研・⁴名大 ASCI）</p>